

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）

# 2022～2024年度 活動報告書

Activity report



佐賀大学 ダイバーシティ推進室  
Office for Equality, Diversity, and Inclusion



|     |    |
|-----|----|
| ご挨拶 | 01 |
|-----|----|

## I ダイバーシティ推進室について

|                    |    |
|--------------------|----|
| 1. ダイバーシティ推進室の紹介   | 04 |
| 2. 佐賀大学ダイバーシティ推進宣言 | 05 |
| 3. ダイバーシティ基本方針     | 05 |

## II ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)事業

|         |    |
|---------|----|
| 1. 事業概要 | 07 |
| 2. 目標   | 07 |
| 3. 実施体制 | 08 |
| 4. 取組概要 | 09 |

## III ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)事業活動報告

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 1. 海外派遣助成制度                          | 11 |
| ● 海外派遣事業                             |    |
| ● 女性研究者の研究発信サイト「さがシーズMusubime」制作支援事業 |    |
| 2. 研究力向上セミナー                         | 27 |
| 3. 女性研究者への研究活動費支援制度                  | 28 |
| ● 女性研究者を代表者とする共同研究活動費支援事業            |    |
| 4. 女性限定公募、クロスアポイントメント制度              | 29 |
| 5. ダイバーシティ推進のための業務改善学習会              | 30 |
| 6. 女性研究者の公平な昇任昇格制度改善プロジェクト           | 31 |
| ● 無意識バイアスeラーニング                      |    |

## IV その他の取組

|                        |    |
|------------------------|----|
| 1. シンポジウム・講演会          | 34 |
| 2. 在宅勤務制度              | 38 |
| 3. アンケート調査             | 39 |
| 4. 研究補助員雇用支援           | 40 |
| 5. 女子中高生の理系進路選択支援プログラム | 41 |
| 6. 佐賀大学黒田チカ記念賞         | 42 |

## V 情報発信

|            |    |
|------------|----|
| 1. ウェブサイト  | 44 |
| 2. ニュースレター | 45 |
| 3. その他印刷物  | 50 |

|                                                  |    |
|--------------------------------------------------|----|
| ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)事業活動記録<br>(2022～2024年度) | 52 |
|--------------------------------------------------|----|

## ご挨拶



国立大学法人 佐賀大学

学長

児玉 浩明

佐賀大学の「ダイバーシティ推進」に係る経緯を振り返りますと、2009年度に「女性研究者支援室」を設置し、その後2012年度には「男女共同参画推進室」、2017年度には「ダイバーシティ推進室」へ改称し、女子学生や女性研究者支援だけでなく、留学生や外国人研究者支援、そしてダイバーシティに対する学内の醸成を図る取組を進め、エクイティ&インクルージョン推進のもと、多様な人材が真の活力を発揮できる大学を目指してきました。

さらに、本学が進むべき「これから」を示す羅針盤として2020年4月に「佐賀大学のこれから-ビジョン2030-」を策定し、この中では、「ダイバーシティを背景に多様な学生が互いを刺激し、学び合う場の創造」、「研究者個々の研究力向上に向けた環境整備と次世代研究者の育成」、「教職員が『やりがい』を持って働くことのできる大学の実現」を掲げ、ダイバーシティ推進室が中核となって、包括的かつ主体的な改革にまい進してまいりました。

2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に採択されたことを機に、「女性教員任用における公募の実施に関する申合せ」や本学の女性研究者の活躍を国内外に幅広く周知するサイト「さがシーズ-musubime-」の開設、執行部や管理職を対象に女性研究者の採用や人事評価について討議を行う「女性研究者の公平な昇任昇格制度改善プロジェクト」など、他に類を見ない新たな取組が誕生したことは、すでに中間報告したところです。

その後、2023年度からは「クロスアポイントメント制度による女性教員採用プロジェクト」を新たに導入し、企業や他大学との連携を強化することで、多様な視点からの教育・研究及び診療に従事することが可能となり、女性研究者のキャリアパスの多様化と大学環境の向上が図られています。また、2023年度には、優秀な女性研究者を表彰する、「佐賀大学黒田チカ記念賞」を創設し、女性だけでなく、ダイバーシティ推進に関わる活動を積極的に行った男性や組織も表彰することとしました。2023年度第1回、2024年度第2回を実施し、計6名を表彰しました。

女性研究者の現状として、日本における女性研究者の割合は依然として低く、特に自然科学系分野への参加が遅れていることが課題とされています。佐賀大学では、これらの課題に対処するため、女性研究者の採用促進や研究力向上のための支援策を強化し、女性研究者が活躍できる環境の整備に努めています。

誰もが働きやすい環境で、認め合い支えあいながら、学び、新たな知を創造する環境の実現。この輝く未来の実現のためにダイバーシティ推進室とともにしっかりと歩みを進めて参ります。

今後も皆さま方のより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



国立大学法人 佐賀大学  
理事(総務・人事担当)

ダイバーシティ推進室長

**渡 孝則**

近年、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)の推進が世界的に注目され、多様な人材がその能力を最大限に発揮できる環境づくりが求められています。日本では、人口減少による諸問題が表面化し、問題解決の一方策として「多彩な人材の適材適所での活用」が求められています。そのためには、DE&Iに基づく「多様な人材の尊重」、「公正な機会の提供」、「人材の活用と発展」、を思考の礎とし、具体的な方策を考えることが必要です。

本学は、2019年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に採択され、本年度をもってその最終年度を迎えました。本事業を通じて、女性研究者の研究力向上とキャリア形成支援を目的としたさまざまな取組を実施してまいりました。

前半の3年間では、女性研究者の公平な昇任昇格を支援する制度改革に取り組み、公平・公正な昇任を促進するための勉強会や講演会を開催し、大学執行部の無意識バイアスに関する理解を深め、さらに「教員採用ハンドブック」を作成しました。このハンドブックは、多様な応募者の確保、ダイバーシティを考慮した選考プロセス、そして組織全体として多様性を活かすための指針を示すものであり、DE&Iの理念を実現するための重要な一歩となりました。

後半の2022年度以降は、女性研究者のさらなる増加とキャリア支援の充実を目的として、クロスアポイントメント制度の導入を進めてまいりました。この制度により、他機関との連携を強化し、より多様な研究環境を提供することが可能となりました。また、無意識バイアスに対する教職員及び学生の理解を深めるために佐賀大学独自の研修動画を作成しました。これらの活動により、大学に残っている古い価値観の変革にも寄与しました。

これらの取組の成果として、本学における女性研究者の割合の増加、女性研究者の上位職への登用、そして大学運営への女性の積極的な参画が進みました。今後も本学は、DE&Iのさらなる発展を目指し、持続可能で多様性に富んだ研究環境の構築に尽力してまいります。

本事業の実施にあたり、ご支援・ご協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

# I

## ダイバーシティ推進室 について

1. ダイバーシティ推進室の紹介
2. 佐賀大学ダイバーシティ推進宣言
3. ダイバーシティ基本方針

# I ダイバーシティ推進室について

## 1 ダイバーシティ推進室の紹介

佐賀大学ダイバーシティ推進室は、2017年(平成29年)に、ダイバーシティ推進会議の下、前身にあたる「男女共同参画推進室」から変更し、設立した。ダイバーシティ推進室設立に先立ち、2017年(平成29年)にダイバーシティ推進基本方針・宣言を発表、2018年(平成30年)には、本学のダイバーシティ推進に関するビジョンを策定し、校内でのダイバーシティへの推進・啓蒙活動を行っている。

2018年(平成30年)から国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に4期連続で採択され、現在は「継続・育成型STEAMガールズ コンソーシアム」として、共同機関の久留米工業大学、及び連携機関である西九州大学、長崎国際大学、佐世保工業高等専門学校と協力して、次世代育成の事業を行っている。

2019年(令和元年)には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に採択され、女性研究者の研究力向上のための取組や、上位職への積極採用に向けた取組を支援し、現在に至っている。



ダイバーシティ推進室看板



ダイバーシティ推進室ロゴマーク

## 2 佐賀大学ダイバーシティ推進宣言

21世紀は、あらゆる領域で「知」が社会活動の基盤になるうとしています。

佐賀大学は、佐賀大学憲章に基づき、新しい「知」を創造する教育研究の環境を整え、すべての構成員の英知を結集し、その総合力を最大限に発揮できるように努めています。

多様な背景を持つすべての人が、互いにその人権を尊重しつつ、自らの責任を自覚し、経験や価値観を「融合」することで新たな「知」が創生されます。そのためには、すべての人がその個性と能力を十分に発揮することができる魅力ある大学を実現させることが重要であり、自らの意思で多様な生き方を選択でき、そのことをお互いに認め合うことができる環境が必要です。

佐賀大学は、性別や性的指向、民族、国籍、宗教、年齢、障害の有無等による差別のない環境を実現するために、お互いの理解を深めます。そして、これまで意思決定の場に参画することが少なかったマイノリティの人たちも安心して学び、働き、活躍できる環境をつくるために、佐賀大学はダイバーシティを推進することを宣言します。

## 3 ダイバーシティ基本方針



### 新しい「知」の創造と 伝達のために

- 教育・研究の充実した環境を整えます
- ダイバーシティの推進に向けて国内外の大学等と連携・協力を図ります
- 学生・教職員に対して、啓発活動を行います

### DIVERSITY BASIC POLICY of SAGA UNIVERSITY



### 制度・慣行の 見直しと是正

- 必要に応じて制度や慣行を見直します
- 組織全体における人的構成の男女格差を是正します
- ポジティブ・アクションをとります



### 仕事と生活の 調和と支援

- 教育・研究・就業と生活との両立を支援します
- 育児・介護を担っている学生や教職員に対する支援体制を充実します



### 人権を尊重する 大学づくり

- 人権や人格を侵害するような事態（ハラスメントなど）をなくします
- 社会的に不利益を被りがちなマイノリティの人々にも目を向けます



### 地域社会との 連携と貢献

- 地域社会との連携・協力を通じてダイバーシティを推進します
- 男女共同参画の教育と研究の成果を地域と共有し、地域の発展に尽します

## Ⅱ

# ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ(先端型)事業

1. 事業概要

2. 目標

3. 実施体制

4. 取組概要

## Ⅱ ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)事業

### 1 事業概要

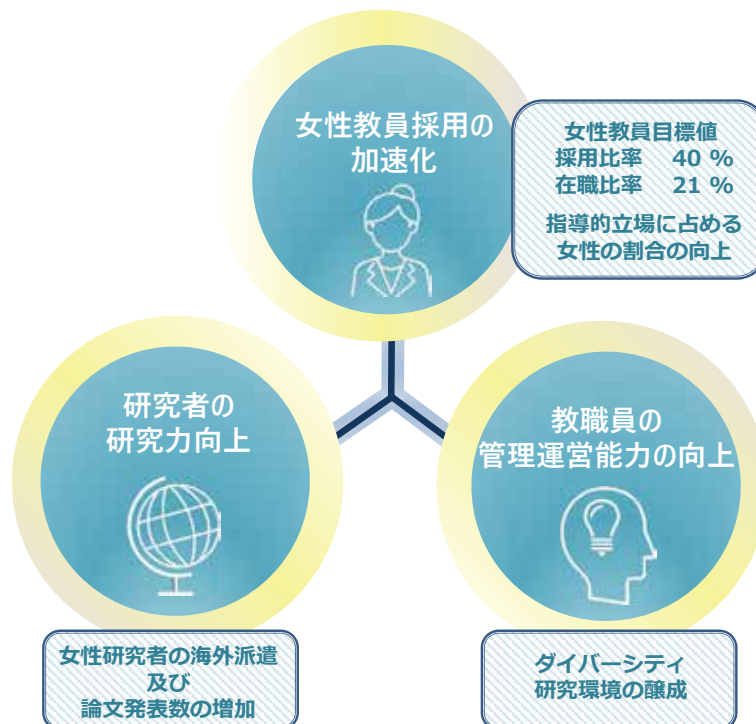
佐賀大学は、2019年(令和元年)に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に採択された。

本事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者の研究力向上のための取組、及び上位職への積極採用に向けた取組を支援するものである。

この事業に取り組むことで、女性研究者が途切れることなくキャリアアップを図ることができる研究環境の整備と様々な視点を持った研究者がともに研究活動を行う環境が構築されることが期待されており、従前よりもさらに高い目標を掲げ、女性研究者の海外派遣等を通じた上位職登用の一層の推進や、研究者の活躍促進を踏まえたより広いダイバーシティ研究環境の形成を図る先端的な取組を行うものである。

### 2 目標

女性研究者が少ない本学において、まずは女性限定公募により若手研究者の増加を目指す。また、国際的に活躍できる女性研究者及び大学を牽引する女性リーダー育成のための取組を展開する。



### 3 実施体制

本学は、2017年（平成29年）に学長を議長とするダイバーシティ推進会議の下にダイバーシティ推進室を設置し、事務組織の支持に基づく体制を始動した。

ダイバーシティ推進会議は、学長が議長となり、学部長等部局の長を構成員とし、事業推進に取り組んでいる。「革新性や独創性の高い研究・教育の実現には人材の多様性が重要であること」を当事者として理解し、それを各学部等に浸透させる組織を目指している。

事業の実働組織となるダイバーシティ推進室には教員から選出された室長、副室長、広報・環境整備部門・研究支援部門・次世代育成部門の3つを置き、部門長が事業を小括する。関連事務の責任者が部門会議に参加する体制となっているので、大学運営への迅速で包括的な取組が可能である。2022年（令和4年）度からは、本事業に関しては、室長、副室長に加え、常勤職の事務担当2名、コーディネーター1名、事務補佐員1名の体制で推進している。

推進事業は総務・人事担当理事が総括し、進捗については推進会議にてPDCAサイクルに基づきフィードバックをかけながら、柔軟な運用を行っている。

ダイバーシティ研究環境を実現するには、ダイバーシティ推進室教員・部局毎のダイバーシティ推進委員会、室専任と情報を共有し、それぞれの課題に応じた施策を個別に実施することで、目標を実現する。

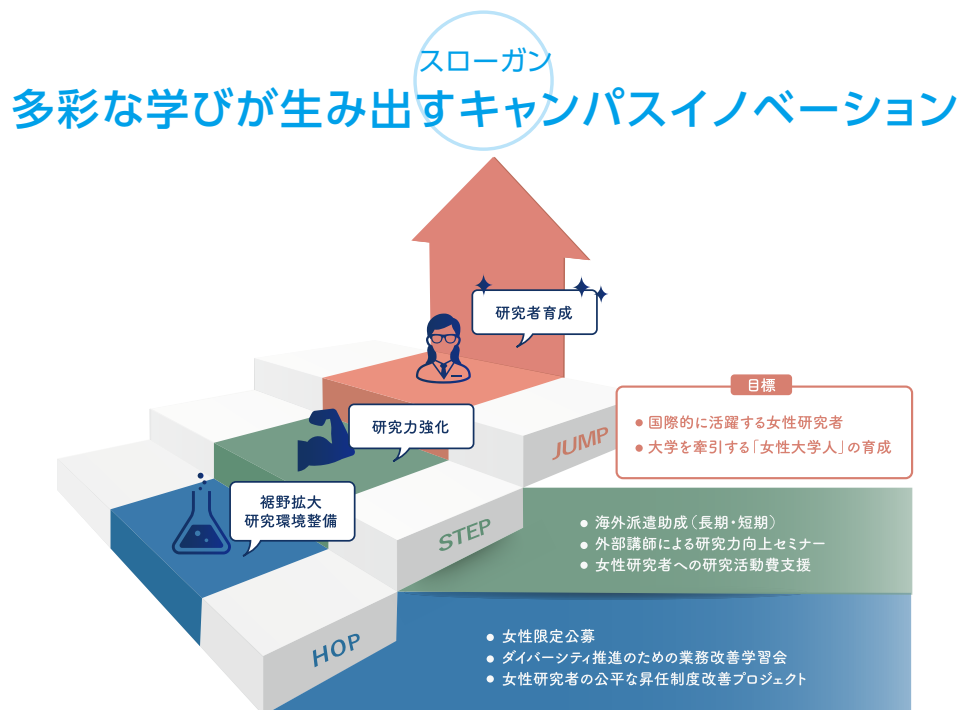
また、以前より連携関係にある学外組織とも連携し、女性研究者支援の取組を推進していく。

本事業の周知及び本学の研究環境等についてはダイバーシティ推進室のホームページ等を通じて情報提供を行う。



## 4 取組概要

佐賀大学では、女性活躍は重要な大学改革戦略との位置づけのもと、女性研究者の更なる活躍と研究力向上を目指す。加えて、業務改善学習会や上位職へ向けたセミナーなど「多様な学び」を教職員を対象に行い、大学全体のイノベーションに貢献する。



### 1. 海外派遣助成制度

女性研究者が海外の研究機関・教育機関において研究を行うことで、研究力向上並びに上位職登用の一層の推進を目的とする。

### 2. 研究力向上セミナー

研究者が研究力を向上し、国際的に活躍したり、上位職に登用されるために、国際的指導者である外部講師によるインパクトの高い論文構成、効果的な国際共同研究の実現、論理的かつ明瞭な英語論文の修正・査読回答の作成等の研究力向上のためのセミナーを実施する。

### 3. 女性研究者への研究活動費支援制度

上位職登用が期待される女性研究者や、女性研究者を代表者とした優れた共同研究活動に対して、研究活動費を支援する。

### 4. 女性限定公募、クロスアポイントメント制度

学内外から教育・研究力の高い有望な女性研究者を採用、登用する。

### 5. ダイバーシティ推進のための業務改善学習会

生産性の高い教育研究現場の構築を目指し、業務改善やダイバーシティなど身近なテーマを設定し、教職員のための勉強会を行う。

### 6. 女性研究者の公平な昇任昇格制度改善プロジェクト

女性研究者の採用や人事評価をテーマに、執行部・部局長・事務管理職を対象に、人事制度についての問題点や課題を抽出し、制度設計を検討する。

# Ⅲ

## ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ(先端型) 事業活動報告

### 1. 海外派遣助成制度

- 海外派遣事業

- 女性研究者の研究発信サイト「さがシーズMusubime」制作支援事業

### 2. 研究力向上セミナー

### 3. 女性研究者への研究活動費支援制度

- 女性研究者を代表者とする共同研究活動費支援事業

### 4. 女性限定公募、クロスアポイントメント制度

### 5. ダイバーシティ推進のための業務改善学習会

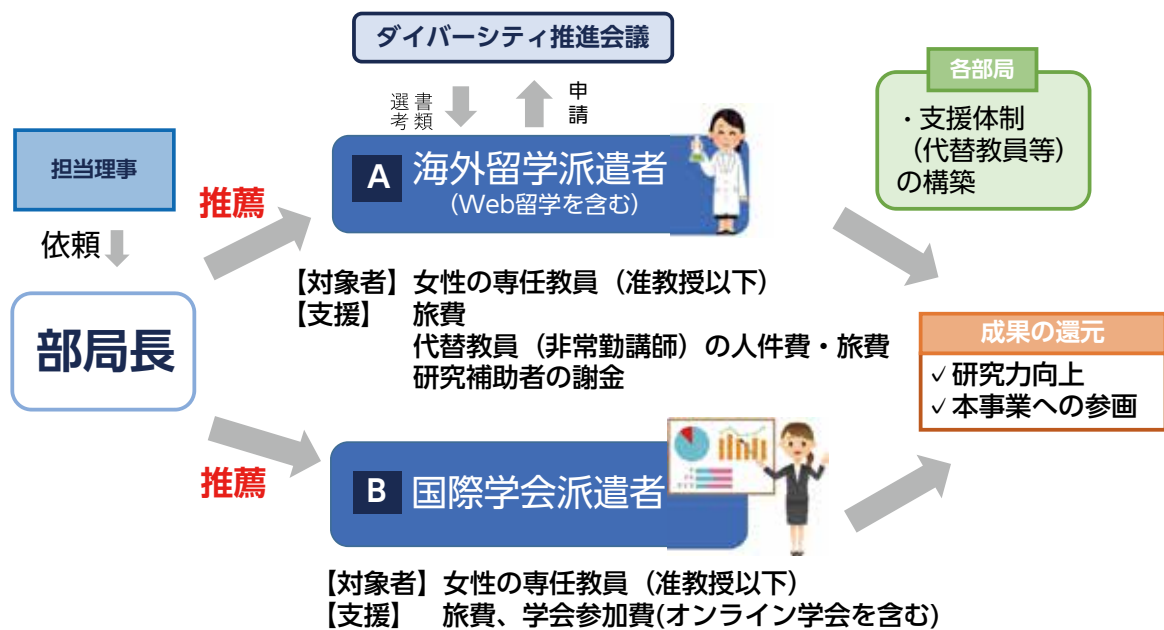
### 6. 女性研究者の公平な昇任昇格制度改善プロジェクト

# Ⅲ ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ(先端型)事業活動報告

## 1 海外派遣助成制度

### ● 海外派遣事業

女性研究者が海外の研究機関・教育機関において研究をすることで、研究力向上並びに上位職登用の一層の推進を目的とする。



#### 海外留学

- 長期：3か月～6か月／対象者数：若干名
- 中期：1か月～3か月／対象者数：若干名
- 短期：1週間～1ヵ月／対象者数：若干名

#### 国際学会

- 1週間未満／対象者数：若干名

#### WEB留学

- 1ヵ月～1年／対象者数：若干名

※女性研究者のニーズ・派遣の実態等を考慮し、派遣期間及び対象者数を変更した（令和5年度要項改正）。

| 年度                | 支援項目   | 支援人数 | 備考                                                                         |
|-------------------|--------|------|----------------------------------------------------------------------------|
| 2022年度<br>(令和4年度) | 国際学会派遣 | 1    | ※佐賀大学「コロナ禍における教職員の海外渡航に関する当面の方針」、並びに佐賀大学「教職員等の海外渡航に関する指針」に基づいて海外出張手続きを行った。 |
| 2023年度<br>(令和5年度) | 中期派遣   | 2    | ※新型コロナウイルス感染症の収束による第5類への移行、及び各国の感染症危険レベルが落ち着いたことで、海外派遣希望者が増えた。             |
|                   | 短期派遣   | 1    |                                                                            |
|                   | 国際学会派遣 | 3    |                                                                            |
| 2024年度<br>(令和6年度) | 長期派遣   | 1    |                                                                            |
|                   | 短期派遣   | 1    |                                                                            |
|                   | 国際学会派遣 | 3    |                                                                            |

## ・2022年度 派遣者レポート・

所属・氏名 医学部 准教授 坂本 麻衣子  
 派遣種類 国際学会派遣  
 発表題目 A potential behavioral sign for detection of mild HIV-related neuropsychological impairment  
 学会名 International Neuropsychological Society (INS：国際神経心理学会)

### 1. 開催地と派遣期間

カリフォルニア州サンディエゴ（アメリカ合衆国）  
 2023年1月31日～2月7日（8日間）

### 2. 講演・発表の概要

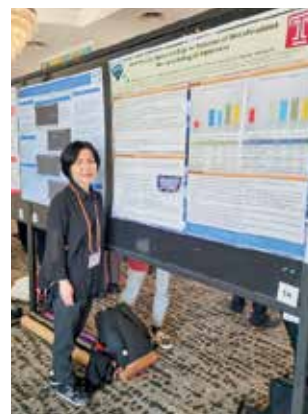
抗HIV薬（ART）の開発によりHIV感染症は慢性病となったものの、HIV感染そのものに加えて、高齢化による認知機能低下が問題となっている。認知機能及びIADL低下をより早く発見しサポートにつなげるために、マンパワー不足の臨床現場でも患者さんが一人で実施できるタッチパネル版のスクリーニング検査を開発した。本検査は元来のテスト得点だけの評価に留まらず、HIV感染者の行動エラーパターンをウェブカメラとリープモーションカメラで解析し、軽度の認知機能・判断能力低下を認識することが出来る。HIV領域において検査の得点と行動指標を同時に評価できる検査を開発し、今回発表するのは世界においても本研究が初めてである点で、非常に重要である。

### 3. 成果

新型コロナウイルス感染拡大のため、3年間、対面で研究発表を行うことができませんでしたが、佐賀大学ダイバーシティ推進室からのサポートを受け、今回参加させていただいたINSでは、自身の研究発表はもちろん、様々な国を代表する優秀な研究者の素晴らしい発表を聞いたり、共同研究のお話をしたりと、次の研究に繋がる良い刺激となりました。

また、令和5年7月に開催される東アジア初のINS台湾大会の大会長として、台湾チームやアメリカの本部の先生方と活発な意見交換をすることができました。さらには、今回の対面によるネットワーキングのおかげで、Asian Neuropsychological Association（ANA：アジア神経心理学会）から、International Liaison Taskforce（国際連携特別委員会）の中心メンバーになるようお声が掛かり、神経心理学の国際的な教育や共同研究の推進を目標に国境のない活動を行うこととなりました。

3年という長い期間を経て、対面で学会発表できたことはもちろんですが、人種・性別・年齢を超えた国際的活動に繋がる、素晴らしい教育者・研究者と出会い、そしてディスカッションできたことは非常に実りがあったと感じます。



ポスター発表の様子



INS台湾大会プロモーションデスク  
でGuo先生（現地大会長）と一緒に

#### 【海外派遣支援事業の良かった点】

物価の高騰により、渡航費用がコロナ前の1.5～2倍ほど掛かってしまう中、国際学会での発表を支援していただいたお陰で、世界中のたくさんの研究者と交流することができ、共同研究のお話もいただきました。研究の成果を継続的に発表することができて良かったです。

#### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

苦労した点はございません。感謝の気持ちしかありません。

### 【今後、国際学会発表を考えている方へのメッセージ】

新型コロナウイルス感染拡大を受け、国外への渡航が許されず悶々と数年間を過ごされたことだと思います。この期間に実施した研究を思存分国際学会で発表し、また更なる国際的な共同研究に繋がるよう頑張ってください！

## ● 2023年度 派遣者レポート ●

所属・氏名 理工学部 准教授 宮原 真美子

派遣種類 中期派遣

研究題目 ドイツ・ゲマインシャフト（共同建設体）による参加型集合住宅の供給・管理に関する研究

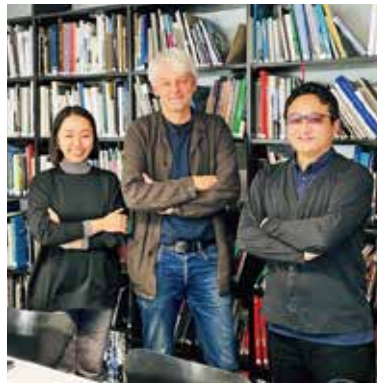
### 1. 派遣先と派遣期間

Freie Universität Berlin（ドイツ ベルリン）

2023年8月3日～ 10月31日（90日間）

### 2. 研究概要

2000年代に入り、民間事業者による供給が重視されるようになった日本の公営住宅整備の状況を踏まえ、ソーシャル・ハウジングの供給をある程度市場に委ねながらも公益的なニーズを組み込む集合住宅計画を構築することを目的に、研究では、ドイツのゲマインシャフト（建設共同体）により計画された集合住宅のうちソーシャル・ハウジング世帯を含む事例を対象に、現地調査を行なった。調査は、住宅建設の責任が連邦から州政府に移譲された2006年以降の社会住宅の整備手法・整備主体の実態を把握するため、ノルトライン＝ヴェストファーレン州の公的建設に対して補助金の割り当てを担当するNRW州立開発銀行へのヒアリング調査（資料収集含む）と、具体的なゲマインシャフト（共同建設体）による参加型集合住宅の整備事例の現地視察行い、供給事業者、建築家、居住者へのヒアリングを行なった。



（写真左から、現地調査で市の住宅局職員へのヒアリングの様子、調査対象である事例の設計者Prof. Achim Pfeifferとの記念撮影、受け入れ教員であるベルリン自由大学Prof. Dr. Cornelia Reiherとの記念撮影@大学近くのカフェ）

### 3. 成果

- ・「住総研 研究論文集・実践研究報告集No.51（2025年4月）」に、査読付き論文掲載決定
- ・今後、日本建築学会にて発表予定

### 【海外派遣支援事業の良かった点】

現地でのハウジング調査（フィールド調査）が主な研究手法であるため、90日というまとまった時間をいただいたことで、ドイツ全国に点在するハウジングのパイロットプロジェクトを回ることができ、今

後の研究につながる知見や、同研究分野の研究者とのネットワークを築けた点が良かった。

### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

派遣時は、オンラインで対応できる授業やゼミはオンラインで行い、演習等の対面でしかできない授業は他の先生と調整の上、派遣時期・期間を決めた。期間としては、4ヶ月弱の滞在が可能であったが、派遣決定から派遣日まで日数がなく、ビザ手続きが実質不可能であったため、期間を90日以内にせざるを得なかったこと。ビザ手続きには3ヶ月から半年程度かかる。それを見込んで派遣決定を行なっていたら良かった。また、現地での住居の確保には苦労した（円安であったため費用面でも非常に苦労した）。

フィールド研究という研究方法の性質上、派遣先大学を拠点にドイツ国内を回る必要があった。そのため、自身で民間の研究助成金を獲得していたが、予算の併用に関して、当初経理上不可と回答があり、学内の調整に時間を要し大変だった。

### 【今後、留学・海外派遣を考えている方へのメッセージ】

チャンスがあれば、ぜひ。

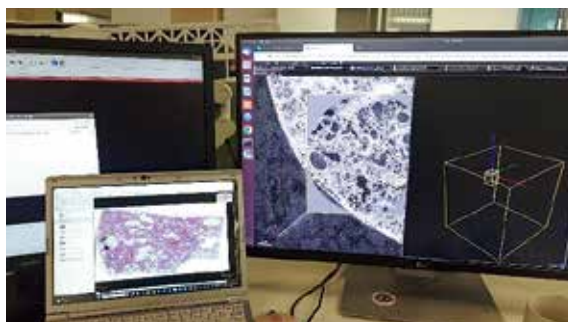
所属・氏名 医学部 助教 江頭 玲子  
派遣種類 中期派遣  
研究題目 階層的位相コントラストCTによる超高分解能micro CTを用いた肺線維症が肺内小脈管構造に及ぼす影響の解明

#### 1. 派遣先と派遣期間

Centre for Medical Image Computing, University College London（英国 ロンドン）  
2023年9月21日～11月22日（62日間）

#### 2. 研究概要

階層的位相コントラストCTによる超高分解能micro CT（Hip-CT）を用いた肺線維症が肺内小脈管構造に及ぼす影響の解明を目的とし、Hip-CT画像での線維化病変や線維化の先進部に相当する線維芽細胞巣の同定、病変部における血管構造がどのようなになっているのかを観察した。対象にしたものは特発性肺線維症（IPF）、Pleuroparenchymal fibroelastosis（PPFE）にて摘出された肺を撮影したものが中心だが、線維化所見のない症例における血管構造についても検討するため、その他複数の症例を対照群として検討した。また、Hip-CTに加え、ベルギーの共同研究者の施設で開発したmicro CTで撮影された摘出肺の画像も同時に検討を行い、臨床的に使用されているCT機器からHip-CTまで、段階的に解像度、分解能が異なる画像での見え方の違いも検討した。また、Hip-CT自体の理解を深めるため、実際に撮影するフランス、グルノーブルのシンクロトロン施設にも出向き、症例の撮影にも参加した。



#### 3. 成果

通常、病理組織サンプルにおいては、標本として作成した切片のみを検討することになるが、摘出した臓器全体の評価をある程度までのミクロなスケールで観察可能であり、更に超高分解能撮影を行った領域における線維芽細胞巣の分布や脈管構造との位置関係などを評価することができた。現在、自分が採取したデータと、他のモダリティを用いて共同研究者が解析したデータを組み合わせ、論文作成過程である。

最先端かつ非常に大規模な研究のスタート段階に参入することができ、自分が発見した知見が今後の研究の土台として役立てられることにもなった。帰国後も客員研究員として可能な範囲で研究を継続することとなった。帰国後は日常臨床とHip-CT研究を同時進行することが難しく、ロンドン滞在時に採取した以上のデータを得ることができなかったものの、先方より研究継続の要請があり、次年度は再度渡英して研究員として雇用される予定となった。

#### 【海外派遣支援事業の良かった点】

ある程度まとまった額の支援を受けることで、思い切って渡英するきっかけができた。

#### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

国によって生活に要する費用が異なるが、特にロンドンは滞在費用が高額であり、金銭的な負担は大きかった。完全にスタートアップ段階にあった研究であり、自分自身が所見を見だし、何ができるかを考える必要があったが、評価するサンプルの用意、撮影などがそれぞれ異なる国・施設で行われている完全な多国籍研究であるため、情報のやり取りや状況把握に苦労した。

#### 【今後、留学・海外派遣を考えている方へのメッセージ】

日本の医療は進んでおり、海外に行かずとも学べることが多いが、外の世界を直接体験することや、海外の常識を知ること、諸外国の研究者と親密になることは日本にだけいては難しいと思います。考え方の違いを把握することも、研究を進めたり、諸外国からの論文を読んで理解する上で重要な意味を持つと考えます。

所属・氏名 農学部 准教授 辻田 有紀  
派遣種類 短期派遣  
研究題目 絶滅に瀕したラン科植物における共生菌の解明

#### 1. 派遣先と派遣期間

グアム大学（アメリカ合衆国 グアム）  
2023年7月23日～ 8月8日（17日間）

#### 2. 研究概要

ラン科植物は自生地喪失や人為的採取により多くの種が絶滅の危機に瀕している。しかし、本植物の種子は特定の共生菌が生育に必須であり、その保全に菌との共生系の理解は不可欠である。熱帯域はラン科植物のホットスポットであるが、多くの種では共生菌の種類すらわかっていないのが現状である。グアム島は固有種も多く分布し、その多くが絶滅の危機に瀕している。本研究は、グアム島に自生するラン科植物の共生菌を解明し、絶滅危惧種の保全への応用を目指す。

#### 3. 成果

グアム島は琉球列島や熱帯アジアとの共通種も多く分布しており、日本にも分布がある種類について、共生菌の研究を行った。また、滞在先の研究室では、グアムの絶滅危惧植物を温室で増殖・栽培する保全事業を行っており、現場の視察を行って、多くの技術や知見を学ぶことができた。滞在先は令和3年度に採択された女性研究者を代表者とする共同研究活動支援事業で連携をスタートした海外研究機関であり、無事に共同研究を行うことができた。研究成果は令和6年9月に日本植物学会の年次大会で発表した。

#### 【海外派遣支援事業の良かった点】

通常、海外の共同研究者との協議や合同調査は、現地滞在時間が1週間以内と短いですが、今回は通常の2



グアム大学自然・応用科学部農学生命科学部門にて



フィールドワークの様子

～3倍の長さで滞在したため、現地での野外調査だけでなく研究室内で実験を行う時間も取れて、まとまったデータを取得することができた。また、今回は別のプログラムを利用して、大学院生1名を同伴し、1ヶ月間、現地での研究活動に従事してもらい、教育活動としても実りある滞在となった。

### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

家族との調整に苦労した。今回は子供達の夏休みに合わせて時期を組み、子供2人も一緒に連れて派遣先へ滞在した。現地の先生の援助もあったが、現地での生活を軌道に乗せるまで様々な苦労があった。また、円安もあって現地の生活費が高く、滞在費用が高額となった。

### 【今後、留学・海外派遣を考えている方へのメッセージ】

支援を利用して、ぜひ研究の知見を深めるとともに、国際人としての感覚を養い、広く海外で活躍できる人材になって欲しい。子供がいる場合は長期派遣が難しいが、1ヶ月以内の短期派遣を活用して、ぜひ海外での研究活動にチャレンジしてもらいたい。

所属・氏名 医学部 准教授 原 めぐみ

派遣種類 国際学会派遣

発表題目 The test-negative design case-control study of the effectiveness of BNT162b2 vaccine against symptomatic SARS-CoV-2 infection in children aged 5-11 years in Japan during Omicron variant predominate periods

学会名 17<sup>th</sup> Vaccine Congress (第17回国際ワクチン学会)

### 実施報告

#### 1. 開催地と派遣期間

グラスゴー（スコットランド）

2023年9月23日～9月29日（7日間）

#### 2. 講演・発表の概要

日本において、5～11歳の小児のCOVID-19発症に対する新型コロナワクチンの有効性、および関連因子を評価するために、2022年3月から11月（オミクロン株BA.2系統流行Ⅱ期[3月から6月]およびBA.5系統流行期[7月から11月]）にtest-negative design 11（TND）による症例対照研究を実施した。調査期間中のCOVID-19様症状での受診者579人のうち521人（90.0%）から協力が得られ、症例262人、対照259人を登録した。症例は、対照に比べ、兄弟姉妹を持つ割合やBA.5系統流行期に診断された割合が有意に多かった。性、年齢、兄弟姉妹、調査期間、ワクチン接種後経過期間を調整した結果、COVID-19発症に対するワクチン2回接種のVEは50%（95%CI: 5%-74%）と推計され、海外の報告と

同程度の値が推計された。

本研究結果は、小児のCOVID-19発症に対する新型コロナワクチンの有効性に関する日本初の報告である。

### 3. 成果

世界各国の新型コロナワクチンの有効性評価の手法について情報を得るとともに、研究者間での意見交換ができた。新規ワクチンの開発状況や承認状況、予防接種事業への導入状況についての最新情報も得ることができ、今後の研究課題の創出につながった。

#### 【海外派遣支援事業の良かった点】

提出書類も煩雑ではなく、申請しやすかった点は良かった。配分された研究費を旅費に充てることなく、研究に使用できることで、論文報告につなげたり、次の研究の予備検討を進めたりできた。本事業により、国際学会での発表を目標にすることで、研究活動を活性化できると思う。

#### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

特になし

#### 【今後、国際学会発表を考えている方へのメッセージ】

海外の研究者からは、予測外のコメントをいただいたり、休憩時間には、普段接点の少ない分野の研究者にも質問しやすく、新たな課題を思いつくこともあります。海外の風土や文化に触れることでリフレッシュにもなります。定期的に参加してモチベーションアップにつなげるのがおすすめです。

所属・氏名 医学部 准教授 坂本 麻衣子

学 会 名 International Neuropsychological Society (INS)

講演・発表題目

1. A Novel Touch-Panel Screening Battery for Detecting HIV-Related Neurocognitive Impairment
2. Asian Neuropsychologists: Global Insights on Training, Education, Barriers, and Future Direction

### 1. 開催地と派遣期間

ニューヨーク（アメリカ合衆国）

2024年2月13日～ 2月19日（7日間）

### 2. 講演・発表の概要

1. HIV 感染からくる認知機能障害をいち早く発見・サポートにつなげるために、多忙な臨床現場で患者がひとりで実施できるタッチパネル版検査バッテリーを開発し、健常者とHIV 感染者に実施したところ、認知機能低下が見られる患者を正確に見つけることができた。今後、採点の自動化や医療チームへの結果通知が簡単になれば、その日のうちにサポートの介入ができるようになることが期待される。
2. 欧米諸国に比べて臨床神経心理士になるための教育やトレーニングの不十分さや資格の公的化が遅れているアジア諸国の現状や問題点、将来への課題についてアジアの臨床神経心理士代表として発表を行う。

### 3. 成果

新型コロナ感染の大流行を経験した現在、リモートで実施する認知機能検査に対する関心も高まったの

で、今回発表したタッチパネル版認知機能検査に関する質問はもちろん、この検査を使って遠隔で検査を実施することができないかという質問と共同研究のオファーをたくさん頂きました。佐賀大学では、神経心理学の分野において先進的な研究に取り組んでいることを、国際的に活躍している研究者に紹介することができ、活発な議論ができたことに充実感を感じました。（写真1）

また、アジアにおける臨床神経心理士の資格を取るための教育水準・内容そして臨床トレーニングの現状について、およびアジア人に対し認知機能検査を実施する際の文化的・言語的配慮について、アジアの共同研究者と共に発表し、たくさんの質問と相談を受けました。（写真2）

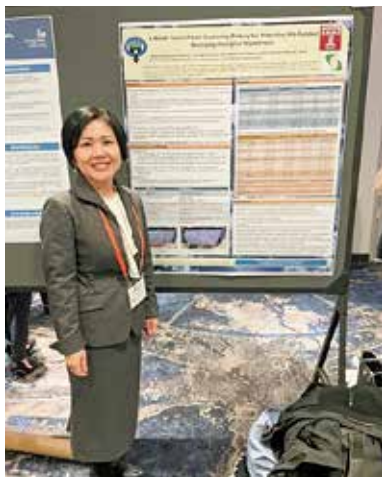


写真1



写真2

#### 【海外派遣支援事業の良かった点】

INSは世界で活躍する臨床神経心理士が一番集まる国際学会ですので、その学会に参加し発表する機会を頂けたことに感謝致します。研究成果の発表はもちろんですが、佐賀大学で先進的な研究をしていることを知っていただける貴重な機会だったと考えています。将来的に、本学に来て研究をしたいと考える若い外国人研究者からの依頼も増えるのではないかと手応えも感じました。

#### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

苦労した点はございません。感謝の気持ちしかありません。

#### 【今後、国際学会発表を考えている方へのメッセージ】

英語での発表に躊躇されている研究者も多いと思いますが、完璧な英語で発表をされている方は誰もいません！「当たって砕ける」くらいの勇気と自分の研究に自信を持って発表をすれば、たくさんの質問と国際共同研究の依頼が来ます。そのチャンスを逃さないためにも、積極的に国際学会での発表にチャレンジしてください！

所属・氏名 農学部 准教授 辻田 有紀

派遣種類 国際学会派遣

発表題目 Mycorrhizal Fungi Involved in the Recent Expansion of *Geodorum densiflorum* in the Bonin Islands, Japan

学会名 The 23rd World Orchid Conference in Taiwan

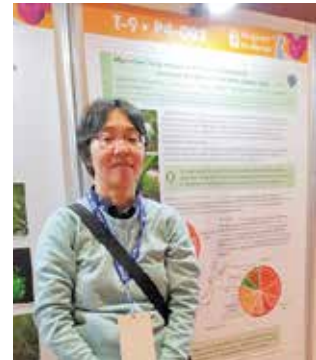
#### 1. 開催地と派遣期間

台南市（台湾）

2024年2月24日～ 2月29日（6日間）

## 2. 講演・発表の概要

ラン科植物は種子発芽時に共生菌からの栄養供給を必須とする特異な発芽様式を持つことから、本植物の分布拡大には共生菌が大きな影響を及ぼす。近年、小笠原諸島に分布を拡大したトサカメオトランは1500km以上の種子散布を伴って海洋島に定着したと考えられている。本研究は本種の共生菌を調査し、担子菌類のツラスネラ科に属する菌株が分布拡大に大きな役割を持っていたことを明らかにした。



ポスター発表の様子

## 3. 成果

研究成果について、各国の研究者と議論する機会を得るとともに関連分野について様々な情報収集ができた。国内の学会では一度発表した内容であったが、さらに幅広い分野の研究者から多様な視点で研究内容に対する指摘や意見をもらうことができ、有意義な発表となった。

本成果は、現在追加データを取得中であり、その後投稿論文として取りまとめる予定である。

### 【海外派遣支援事業の良かった点】

今回の大会では、台湾の共同研究者と今後の方針について話が進み、2025年2月に実際に台湾の研究室を訪問し、佐賀大学の大学院生を2ヶ月派遣する予定である。国内にはない台湾の貴重な植物を研究する機会を得ることができ、自身の発表以外でも大きな成果があった。また、佐賀大学の提携校であるタイのカセサート大学の教員と話す機会があり、今後の共同研究へ進展が期待できた。

### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

本支援については、派遣先が台湾で旅費が欧米に比べて安価であったことから、ほぼ全額を支援していただき、特に苦労はなかったが、近年の円安にともない欧米への派遣は高額になる傾向にあることから、地域により金額に手出しが増える場合は苦労すると思います。

### 【今後、国際学会発表を考えている方へのメッセージ】

国際学会は、国内学会では得られない様々な意見を聞くことができるとともに、関連分野の研究者と交流することができるので、ぜひ参加してもらいたい。

## ● 2024年度 派遣者レポート ●

所属・氏名 教育学部 准教授 成松 美枝

派遣種類 長期派遣

研究題目 アメリカ・ウィスコンシン州の教師教育改革: 2000年以降の「教員の質と量の人材確保」に関する政策理論

### 実施報告

#### 1. 派遣先と派遣期間

ウィスコンシン州立大学マディソン校 (University of Wisconsin Madison, School of Education)  
2024年10月15日～ 2025年3月15日

#### 2. 研究概要

アメリカ・ウィスコンシン州における、2000年以降の教師教育改革に関する研究を行う。特に、「教員の質と量の人材確保」に関する「政策理論」に焦点をあてて、以下の手順で調査を進める。

1. 2000年以降の同州の「教員の質と量の人材確保」に関する「政策理論（Policy Theory）」に関して、ウィスコンシン州立大学教育学部教授 Thomas Owenby氏の指導の下に検討する。
2. 2000～2024年までの期間に「教師教育の政策理論」を基に実施されてきた「教師教育改革」を、①2000年～2010年、②2011年～2016年、③2016年～2024年の3期間に分けて検討する。



キャンパスの様子

帰国後は、派遣先で得た「教師教育改革の理論」に関する知見を、既に検討してきた「実践」に関するデータに加え、教師教育改革の理論と実践の検討に関する出版本を上梓したい。

### 3. 成果

「21世紀以降のウィスコンシン州の教師教育改革の理論」に関して、派遣先のウィスコンシン州立大学マディソン校の名誉教授ザイクナー（Kenneth Zeichner）が提示する「教師教育の3つの課題」：①専門職化（Professionalization）②規制緩和（Deregulation）③社会正義（Social Justice）の追求を基に検討を行った。特に、21世紀以降のウィスコンシン州の教師教育改革を、①2000～2010年②2011～2016年③2017～2024年の3期間に区分して、各期間の改革が3つの課題と理論をどのように追及し実現するものであったのかについて検討した。帰国後は研究課題に関する著書を出版につなげる予定である。

#### 【海外派遣支援事業の良かった点】

渡航前のビザ取得の費用、渡航費、在学登録費用、滞在費（家賃）について経済的支援を5か月間戴いた。渡航前には、研究者滞在のためのビザ取得（I-90）の要領についてもお教示いただき、相手先の大学に提出する「収入証明書」も作成していただいた上に、科研費による研究滞在の使用についてもお教示いただくなど、手厚い支援をいただいた。

#### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

派遣支援者選出の最終決定通知が5月末であったため、準備期間が10月の渡航まで4か月弱しかなく、多数の提出書類作成やビザ取得、宿泊先の確保などを、前学期の通常業務がある中一人でこなすのは体力的にも大変だった。特に宿泊先については大学の入寮選考が5月で終わっており、大学院生以外の Visiting Scholar（訪問研究者）は宿泊施設の使用に制限があるため、探すのが困難であった。派遣先の大学の案内で、訪問研究者用の宿泊先サイトを紹介してもらい高額な物件ではあったが、宿泊先を1か月前にようやく確保した。また、研究者ビザ（I-90）が在福岡米国領事館では取得できず、在大阪・神戸米国総領事館に行かなければならないため多額の経費を要したのと、訪問日のオンライン予約の方法が困難であった。親切的な国際交流センターの職員の方にご支援いただいたお陰で何とか訪問予約を経てビザを取得できた。また、派遣中もゼミ学生の卒業研究の指導や担当授業をオンラインで継続したため、派遣先での研究活動との両立が大変であった。

#### 【今後、留学・海外派遣を考えている方へのメッセージ】

派遣決定が5月末ですので、派遣先の大学の新学年が9月開始の場合6月以降に宿泊先を探すのは困難です。派遣決定通知を受ける前に、早めに宿泊先の予約確保に動くことをお勧めします。また、米国は現在1ドル158円で、日本人の滞在は経済的に大変な時期でした。一方、滞在中は佐賀大での担当学生の卒業論文指導や、ゼミ授業、担当授業の実施は免除してもらわなかったのですが、学生の協力のお陰でオンライン指導で何とか乗り切れました。最初は、短期1～2か月の滞在でも、集中して資料を集めてくればいかなと思っていたのですが、やはり海外の派遣先では事情が分からず、生活に慣れるために時間を要することもあり、海外の大学での研究滞在は3か月以上の期間でないと難しいのではないかと思います。

所属・氏名 芸術地域デザイン学部 准教授 石井 美恵  
派遣種類 短期派遣  
研究題目 染織品の保存修復

### 1. 派遣先と派遣期間

ケンブリッジ大学図書館（英国）  
2024年8月31日～9月29日（30日間）

### 2. 研究概要

ケンブリッジ大学図書館ではエジプト新王国時代のツタンカーメン王の服飾品に関する研究と、染織品保存修復に関する研究の2つのテーマについて文献資料を収集し、研究書にまとめるための執筆を集中的に行った。特に20世紀初頭のエジプト考古学関連の資料はオンラインで閲覧できないものが多数あるので、現地の図書館で発掘記録などを詳細に調べられたことは、研究の事実確認をしてゆくうえで必要かつ重要な作業を集中して行えた。9月20-22日はケンブリッジ大学考古学部にて開催されたEart Textile Study Groupの国際シンポジウムにて「The textile edges of Tutankhamun textiles」と題して口頭発表した。関連行事で考古学部の収蔵庫を見学し、古代エジプトの服飾品を見る機会を得るとともに、各国の考古繊維遺物の研究者の発表や討議を通じて、新しい知見を得ることができた。



ケンブリッジ図書館前にて



国際シンポジウムの様子

### 3. 成果

滞在中にイギリスの出版社から学術書を出版する交渉を成立させることができ、研究成果を公開できる道筋がついた。英文投稿論文を1報仕上げることもできた。

#### 【海外派遣支援事業の良かった点】

世界的なパンデミック後の海外研究であったので、イギリスのポストコロナの状況を見ることができた。社会のタッチレス決済、オンライン化が日本よりも進んでおり、ケンブリッジ大学図書館のデジタル化、大学の各種申請のオンライン化が佐賀大学より格段に発達しており、大きな差を体験したことがよかった。

#### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

円安の影響で滞在費が高かったこと。

#### 【今後、留学・海外派遣を考えている方へのメッセージ】

ポストコロナ後の国際情勢や研究手法のありかたが大きく変化しているので、それも含めて海外で短期間でも研究をすることで研究手法や方向性を改めて考えるよい機会になると思います。

所属・氏名 医学部 助教 川崎 麻己

派遣種類 国際学会派遣

学会名 米国泌尿器科学会議（AUA）

講演・発表題目 Pathological elucidation of cellular dynamics in bladder cancer stroma using a three-dimensional collagen model reproducing cancer-specific microenvironment.

## 1. 開催地と派遣期間

サンアントニオ市（アメリカ合衆国テキサス州）

2024年5月3日～5月7日（5日間）

## 2. 講演・発表の概要

癌治療戦略では、癌微小環境を構成する因子は、癌細胞の挙動、悪性度規定に関与しておりこれらの解明は重要である。本研究で、我々は独自のコラーゲン三次元モデルを用いて膀胱癌細胞挙動において重要な3つの環境因子（生物的、物理学的、化学的）を再現し、①微小環境構成因子の個別効果、②因子間の相互作用、③因子を構成する要素内の相互作用を解明した。生物因子と物理因子は、個別ないし相乗的に膀胱癌細胞株の増殖能とアポトーシスを変化させ、その影響は浸潤形態により異なった。生物因子（間質細胞）と物理因子（流体刺激）による作用は膀胱癌の化学因子（シスプラチン）に対する薬剤感受性を変化させた。関連因子タンパクとして、ERK 1/2、p38 の発現が浸潤形態により異なった。癌微小環境因子間の相互作用は、増殖能や薬剤感受性、関連因子タンパク発現に影響することが示唆された。癌特異的微小環境再現において生物・物理因子の個別作用や連携による機能変化を考慮する必要がある。

AUA では、Moderated Poster Session 65; Bladder cancer; Basic Research & Pathophysiology IIIでの発表の機会を得た。発表内容に関してModeratorのDr. Omarより、実験モデルに関して面白いモデルだがもう少し改善した方が良いとの指摘と、今後臨床応用にどのように発展させるかとの質問があり、それに対して日本国内では体験できない国際的な議論ができた。

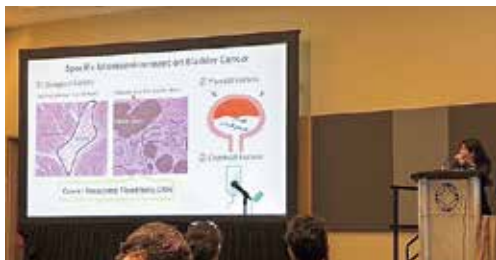


写真1. podium sessionでの発表の様子



写真2. 展示場でロボットデモ



写真3. 医局の若手の先生方と

## 3. 成果

出産、育児、コロナ禍などで、国際学会に挑戦する機会から遠ざかっていた。海外派遣支援事業のサポートのおかげで、10年ぶりに国際学会へ参加することができた。10年ぶりの国際学会の率直な感想は、日本の国際的な存在力の低下を実感したことである。しかし、国内の学会のレベルの高さを再認識もした。スライドやポスターのクオリティは、国内学会の方が高いと思う。近年は、日本人が苦手意識とする英語がA Iなどのサポートにより壁が低くなっており、もっと積極的に海外へ成果を発表する必要性を感じた。今後、国際共同研究などにもチャレンジしてみようと思った。

今回は、医局の若手の先生2人と学会へ参加した。2人とも国際学会が初めての参加であり、貴重な経験を経て、英語学習・国際学会への関心・意欲が上がったとのことであった。国際学会参加を契機に2人

とも研究意欲が高まり、基礎・臨床研究を開始し、そのうち1人の学会発表は学会賞を頂いた。  
若手世代への医学研究への啓蒙活動にも繋がったと思う。大学には、サバティカル等を利用した短期海外  
留学などの援助・サポート体制などをもっと広げてほしいと思った。また、積極的に若手研究者に海外発  
表の機会を与え、日本の業績をアピールする必要があると痛感した。

研究発表内容は、現在論文化しており投稿準備予定である。

### 【海外派遣支援事業の良かった点】

海外支援事業の補助のおかげで、国際学会に積極的に演題を投稿できた。本サポートのおかげで、予定  
より多くの若手の先生方も学会へ参加でき、外部資金や研究費が厳しい現状でも、積極的に国際学会へ研  
究成果をアピールできるチャンスだと思った。

### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

サポート窓口、事務手続きは、臨機応援に対応していただきスムーズで特に苦労した点はなかった。

### 【今後、国際学会発表を考えている方へのメッセージ】

日本の研究・発表レベルは高いので、ぜひ国際学会で積極的に成果を発表してください。A1などの英  
語翻訳の向上で、英語のハードルはひと昔より下がっていると思います。留学や国際共同研究の足掛かり  
にもなるので、ぜひチャレンジしてみてください。

|       |                                                                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 所属・氏名 | 農学部 准教授 辻田 有紀                                                                                                  |
| 派遣種類  | 国際学会派遣                                                                                                         |
| 学 会 名 | International Conference on Mycorrhiza, ICOM12                                                                 |
| 発表題目  | Five <i>Mycena</i> species induced the seed germination of mycoheterotrophic orchids, <i>Gastrodia</i> species |

## 実施報告

### 1. 開催地と派遣期間

マンチェスター（英国）

2024年8月3日～ 8月11日（9日間）

### 2. 講演・発表の概要

植物と共生する菌根菌は、落葉や木材を分解する腐生菌から幾度も進化してきた。本研究で対象として  
いる *Mycena* は、落葉を分解する腐生菌として知られているが、近年植物と共生する能力を持つ種が存在  
し、腐生菌から菌根菌が進化する途中の段階にあることが示唆されている。本研究は、これらの菌類がラ  
ン科植物の菌根菌であることを実証し、*Mycena* が菌類の進化を考える上で注目すべき菌群であることを  
示した。

### 3. 成果

当初はポスター発表として申請していたが、演題  
が口頭発表に格上げになり、国際学会で口頭発表を  
する良い機会をいただいた。日頃から文献で目にし  
ている各国の著名な研究者と、直接話をする機会が  
あり、良い刺激をもらった。成果を発表した研究は、  
すでに投稿論文として取りまとめて、英文雑誌に投  
稿し、1回目の審査が完了して、現在原稿を修正中で、



口頭発表の様子

まもなく再投稿の予定である。

### 【海外派遣支援事業の良かった点】

近年の円安で、欧米で開催される国際学会は、大会参加費と旅費が高額になる傾向にあり、参加を見送ることが多かったが、今回は支援をいただいたおかげで、規模の大きな国際学会に参加することができて、大変ありがたかった。支援がなければ参加できなかった大会であった。

### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

円安に加えて、参加時期が8月で夏休みかつオリンピックのパリ大会、国内のお盆の移動ラッシュと重なってしまったことから、旅費が高額になり、苦労した。現地での生活費も国内の2倍ほどの物価で、出費が嵩んで大変だった。大学院学生を伴って参加したかったが、断念せざるを得なかった。

### 【今後、国際学会発表を考えている方へのメッセージ】

国際学会は、日頃文献で目にする著名な研究者の発表をじかに聞く機会があり、非常に勉強になる。また、英語で発表するチャンスは国内にはないので、ぜひ頑張ってもらいたい。懇親会への参加は、国際人としてのスキルを鍛える良い機会なので、参加費が高額ではあるがぜひ参加を検討していただきたい。

所属・氏名 医学部附属病院肝疾患センター 特任助教 原 なぎさ

学 会 名 AASLD The Liver Meeting 2024

講演・発表題目 Clinical role of brief intervention for harmful alcohol user with chronic liver disease: effect and limitation in hepatology outpatient's unit.

#### 1. 開催地と派遣期間

サンディエゴ（アメリカ合衆国サンフランシスコ州）

2024年11月15日～11月21日（7日間）

#### 2. 講演・発表の概要

今回、ポスターセッションで発表の機会をいただきました。本研究では、慢性肝疾患患者を対象に、飲酒習慣の問診ツールとして広く使用されているThe Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT) を活用しました。AUDITスコア8点以上を「問題飲酒者」と定義した先行研究では、外来通院中の慢性肝疾患患者2034例のうち約12%が該当することを報告しており、本研究ではスコア8点以上の症例を対象に、その後のフォローアップ状況を調査し、減酒状況の実態を検討しました。その結果、全体の8割の患者に減酒指導が実施されている一方で、施設間で実施率にばらつきがあることがわかりました。このことから、減酒指導の実施率向上や、減酒薬を含む積極的な介入の必要性について説明を行いました。

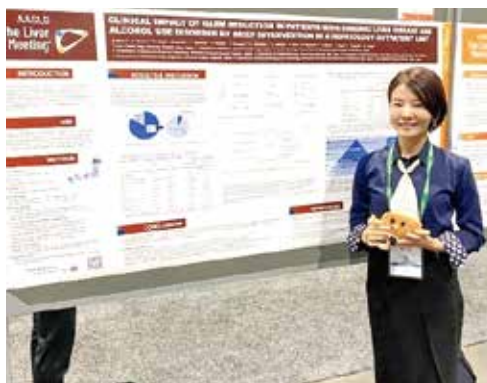


写真1：ポスター発表の様子



写真2：ピックルボール大会

発表後のディスカッションでは、減酒指導に医師だけでなく栄養士も関与している点について、アメリカや中国の研究者から関心を持っていただき、医療体制の違いを実感する場面がありました。また、展示会場ではAASLDの新しい試みとして、参加者同士の交流を目的としたピックルボール大会が開催されました。ミネソタの医療チームと貴重な交流ができたことは思い出深い経験となりました。

### 3. 成果

この研究内容は以下の論文として発表することができました。

Brief intervention for chronic liver disease patients with alcohol use disorder in a hepatology outpatient unit: Effects and limitations. Hepatol Res. 2024 Nov;54 (11) :1099-1105

本研究は、肝疾患領域におけるアルコール使用障害患者を対象とした縦断調査として初めての試みであり、アルコール性肝障害患者への支援方法を検討する際の一助となれば幸いです。

#### 【海外派遣支援事業の良かった点】

初めてのAASLD参加で国際学会の雰囲気を直に感じる事ができたことは大きな刺激となりました。他国の医療現場での取り組みや実情に触れて自分の視野が広がり研究へのモチベーションがさらに高まりました。

#### 【海外派遣支援事業の苦労した点】

渡米が初めてであったため、言語や安全面については相当不安がありました。ですが、フライトや現地での移動、食事の際に、日本の先生方が気にかけてくださり一緒に行動する機会をいただけたおかげで、大変心強く感じながら過ごすことができました。

#### 【今後、国際学会発表を考えている方へのメッセージ】

昨今の円安の影響で海外渡航を躊躇する方もいらっしゃるかも知れませんが、私自身、国際学会派遣支援事業を活用したことで、金銭的な不安を感じることなく思い切って挑戦することができました。このような制度は募集枠が限られているため利用できる方は限られますが、国際学会での発表は研究を世界に伝えるだけでなく、自身の成長にも繋がる貴重な機会だと思います。本支援事業に応募を検討される方には、ぜひこのチャンスを前向きに活かしていただきたいです。

## ● 女性研究者の研究発信サイト「さがシーズMusubime」制作支援事業

女性研究者が自身の研究を効果的に情報発信するWebサイトを制作・活用することで、海外の研究機関・教育機関において研究を行うための海外派遣先や共同研究を実施する研究機関・教育機関を開拓することを目的とする。

現在、女性研究者24名の研究について情報発信をしている。

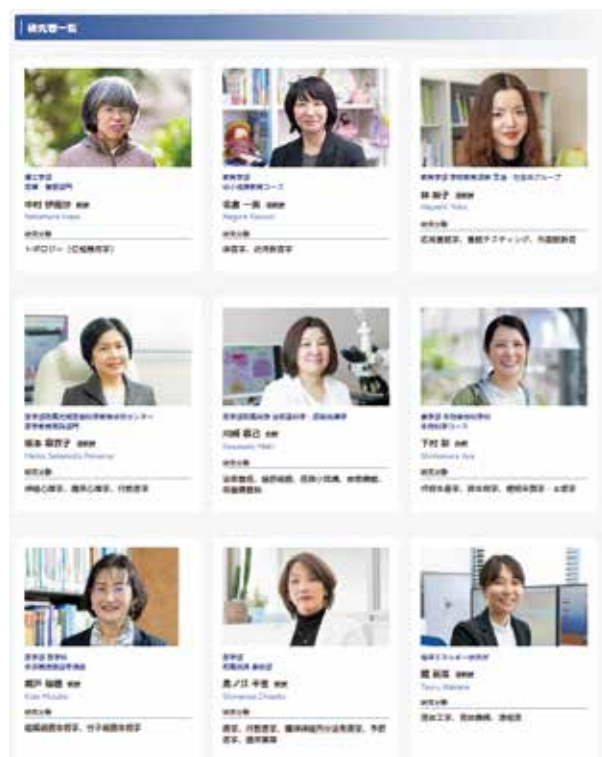
### 日本語サイト

<https://musubime.saga-u.ac.jp>



### 英語サイト

<https://musubime.saga-u.ac.jp/en/>



## 2 研究力向上セミナー

研究者が研究力を向上し、国際的に活躍したり、上位職に登用されるために、国際的指導者である外部講師によるインパクトの高い論文構成、効果的な国際共同研究の実現、論理的かつ明瞭な英語論文の修正・査読回答の作成等の研究力向上のためのセミナーを実施した。

### ● 2022年度 ●

#### 英語論文執筆セミナー “Getting Published Workshops”

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 日 時 | 2022年10月15日(土) 9:00～17:00     |
| 場 所 | 本庄キャンパス 理工学部6号館1階都市工学大講義室     |
| 講 師 | Jeffrey Robens博士 (ネイチャー・リサーチ) |
| 参加者 | 36名                           |



### ● 2023年度 ●

#### PIに学ぶ仕事術 — 研究力を向上するには —

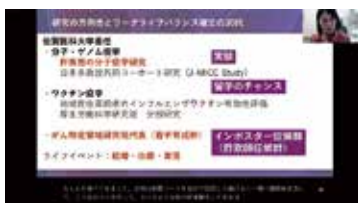
|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 日 時 | 2024年3月14日(木) 14:00～15:30 |
| 場 所 | オンライン(Zoom)               |
| 講 師 | 野出 孝一医学部長                 |
| 参加者 | 66名                       |



### ● 2024年度 ●

#### 研究力向上の秘訣 — 選択と挑戦の軌跡 —

|     |                                                   |
|-----|---------------------------------------------------|
| 日 時 | 2025年2月27日(木) 16:00～17:00                         |
| 場 所 | オンライン(Zoom)                                       |
| 講 師 | 原 めぐみ准教授 (医学部社会医学講座)<br>第1回 佐賀大学黒田チカ記念賞女性研究者部門受賞者 |
| 参加者 | 45名                                               |



## 3 女性研究者への研究活動費支援制度

### ● 女性研究者を代表者とする共同研究活動費支援事業

ダイバーシティ研究環境整備強化の取組の一環として、上位職登用が期待される女性研究者や、女性研究者を代表者とした優れた共同研究活動に対して、研究活動費を支援した。

#### ● 目的

女性研究者がプロジェクトマネジメントの経験を通して、研究力の向上および管理力の向上に資することを目的として支援する。

#### ● 選考方法

年に1回募集を行い、書類による選考後、採択者及び助成額を決定する。

#### ● 支援期間

支援決定後～翌年2月末

#### ● 申請区分

##### 【A:研究リーダー促進型】

国際的・学際的共同研究に対する支援

- ・本支援の趣旨より、海外の研究者を学外研究協力者として共同研究組織に参加させることを必須とする。
- ・共同研究のテーマは国際的・学際的事であること。
- ・支援終了後も大型外部資金の獲得を目指し、確実に次の共同研究の発展につなげる。

##### 【B:共同研究構築型】

学内の共同研究や学外の研究協力者の開拓への支援

- ・本支援の趣旨より、海外の研究者1名以上を学外研究協力者として共同研究組織に参加させることが望ましいが、これから海外との共同研究の構築・開拓を目指す場合は、学外協力者として依頼予定の海外の研究者名、海外研究機関・海外教育機関等の名称を具体的に挙げ、申請書本文に明記する。
- ・本支援終了後は、A:研究リーダー促進型への申請を目指す。



### 共同研究活動費支援事業 採択者一覧（2022年度～2024年度）

| 年度                | 種別          | 代表者                    | 採択課題名                                                                  |
|-------------------|-------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 2022年度<br>(令和4年度) | A:研究リーダー促進型 | 医学部社会医学講座<br>准教授 松本 明子 | 日本人に多い掌蹠型メラノーマはアルデヒド由来なのか？ —ALDH2 多型とメラノーマの関連の研究                       |
| 2023年度<br>(令和5年度) | A:研究リーダー促進型 | 経済学部経済学科<br>准教授 谷 晶紅   | 人口減少と技術進歩の下での経済成長についての考察 —理論モデルの構築と日中データを用いた検証—                        |
|                   |             | 経済学部経営学科<br>准教授 洪 廷和   | オンラインストアにおける消費者認識に関する国際比較研究（日韓） —オンライン・リテラー・トラストとブランド・ロイヤリティとの関係に注目して— |
| 2024年度<br>(令和6年度) | A:研究リーダー促進型 | 医学部社会医学講座<br>准教授 松本 明子 | rs671モデル動物特化型データベース整備への挑戦                                              |
|                   | B:共同研究構築型   | 農学部<br>助教 下村 彩         | 低炭素投入型農業の実現に向けたベトナム・メコンデルタに適したダイズ品種の創生                                 |

## 4 女性限定公募、クロスアポイントメント制度

女性教員の比率向上のための具体的な取組として、「女性限定公募」「女性優先公募」を行っている。さらに2023年(令和5年)度からは、他機関や企業との連携強化・人的交流促進、及び多様な人材による教育・研究の発展を目的として、「クロスアポイントメント制度を利用した女性研究者の受け入れ」を推進している。

### ●女性限定公募・女性優先公募

ダイバーシティ推進会議において「佐賀大学におけるダイバーシティを深化させるための人事施策」(令和元年12月9日)が決定され、教育研究評議会において「女性教員任用における公募の実施に関する申合せ」が制定された(令和2年3月13日)。これらに基づき、女性の割合が相当程度少ない部局等の現状を積極的に改善することを目的として、女性限定公募を実施している。また、業績(研究業績・教育業績・社会的貢献・人物ほか)の評価において同等と認められる場合には、女性を優先的に採用する女性優先公募を行っている。

### 女性限定公募・女性優先公募による採用・昇任人数(令和7年3月末時点)

|                   | 女性限定公募                     | 女性優先公募                                                                                                       |
|-------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和4年度<br>(2022)   | なし                         | 【採用】<br>医学部6名(助教6名)<br>附属病院6名(講師1名、助教5名)<br>【昇任】<br>医学部1名(講師)                                                |
| 令和5年度<br>(2023)   | 【採用】<br>理工学部1名(助教)         | 【採用】<br>教育学部3名(准教授)<br>芸術地域デザイン学部1名(准教授)<br>医学部9名(教授2名、講師1名、助教6名)<br>理工学部1名(教授)<br>【昇任】<br>医学部3名(准教授2名、講師1名) |
| 令和6年度<br>(2024)   | 【採用】<br>理工学部1名(准教授)        | 【採用】<br>医学部8名(教授1名、講師1名、助教6名)<br>センター等3名(准教授)<br>【昇任】<br>医学部1名(講師1名)                                         |
| 予定(2025<br>年4月以降) | 【採用】<br>理工学部2名(准教授1名、助教1名) | 【採用】<br>教育学部1名(講師)<br>医学部5名(助教)<br>【昇任】<br>医学部1名(准教授)                                                        |

### ●クロスアポイントメント制度

2023年(令和5年)度より、ダイバーシティの推進、他機関との戦略的関係構築及び戦略的人員配置を目的に、国立大学法人佐賀大学クロスアポイントメント制度に関する規程第2条第1項第2号に基づき、「クロスアポイントメント制度を利用した女性研究者受入にかかる支援要領」を作成した。支援要領に基づき、本学に女性研究者を受け入れる場合、特定経費により一定の支援を行っている。

### クロスアポイントメント制度による受け入れ女性研究者数(令和7年3月末時点)

| 医学部 | 理工学部 | 農学部 | 合計 |
|-----|------|-----|----|
| 3名  | 3名   | 3名  | 9名 |

## 5 ダイバーシティ推進のための業務改善学習会

生産性の高い教育研究現場の構築を目指し、業務改善やダイバーシティなど身近なテーマを設定し、教職員のための勉強会を行った。

### ・2022年度・

#### はじめてのアンガーマネジメント－イライラと上手に向き合う－

|     |                                |
|-----|--------------------------------|
| 日 時 | 2023年3月14日(火) 14:30～16:00      |
| 場 所 | 本庄キャンパス 教養教育大講義室               |
| 講 師 | 戸田 久美氏（一般社団法人日本アンガーマネジメント協会理事） |
| 参加者 | 36名                            |



### ・2023年度・

#### 断捨離®の効用～空間を味方にする極意～

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 日 時 | 2024年2月6日(火) 12:30～14:00 |
| 場 所 | 本庄キャンパス 教育学部1号館1階多目的室    |
| 講 師 | やました ひでこ氏（断捨離®提唱者）       |
| 参加者 | 73名                      |



### ・2024年度・

#### 業務効率化のためにForms, Excel, PowerPointについて学ぼう!

|     |                                                                                               |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 2024年9月5日(木) Forms研修 9:00～10:00 Excel研修 10:00～12:00<br>2024年9月12日(木) PowerPoint研修 10:00～12:00 |
| 場 所 | 本庄キャンパス情報基盤センター2階研修室・オンライン(Zoom)                                                              |
| 講 師 | 中沢 亮氏、正野 友稀氏（株式会社コンピューター技研）                                                                   |
| 参加者 | 43名（3研修参加者の合計人数）                                                                              |



## 6 女性研究者の公平な昇任昇格制度改善プロジェクト

女性研究者の公平な評価及び昇任昇格制度の確立を目的とし、女性研究者の登用についてコンサルティングの支援を受けながら、女性における人事制度についての問題点や課題を抽出し、制度設計の検討を行った。

### • 2022年度 •

先進的な女性研究者支援の取組を続けている東北大学から、大隅典子東北大学副学長(広報・ダイバーシティ)を招聘し、プロジェクトメンバーとの座談会を開催した。荒木薫ダイバーシティ副室長による話題提供後(数値で見る本学の女性研究者)、大隅氏と活発な意見交換を行った。

#### 東北大学副学長大隅典子氏とプロジェクトメンバーによる座談会

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 日 時 | 2023年2月13日(月) 14:30~16:00 |
| 場 所 | 本庄キャンパス 理工学部6号館2階205室     |
| 講 師 | 大隅 典子氏(東北大学副学長)           |
| 参加者 | 15名(プロジェクトメンバー)           |



### • 2023年度 •

シンポジウム「大学の未来とダイバーシティ」において、学部長をパネリストとするパネルディスカッションを実施した。パネルディスカッションは2部制とし、第1部「大学の未来に向けて、今、取り組むべきこと」 第2部「ジェンダー・ダイバーシティの実現に必要なこと」をテーマに意見交換を行った。

#### 元村有希子氏と部局長によるパネルディスカッション

|         |                           |
|---------|---------------------------|
| 日 時     | 2024年1月31日(火) 13:30~15:45 |
| 場 所     | 本庄キャンパス 理工学部6号館都市工学大講義室   |
| コメンテーター | 元村 有希子氏(毎日新聞論説委員)         |
| 参加者     | 11名(プロジェクトメンバー)           |



### • 2024年度 •

事業成果報告会「佐賀大学のこれから-ダイバーシティ研究環境の実現に向けて-」において、ダイバーシティ環境実現イニシアティブの6年間の取組と事業成果についてプロジェクトメンバーと共有した。トークセッションにおける女性研究者3名の生の声をヒントに、本学のジェンダーパリティの在り方や具体的な施策について意見交換を行った。

#### ダイバーシティ環境実現イニシアティブ先端型事業成果報告会での意見交換

|     |                            |
|-----|----------------------------|
| 日 時 | 2025年3月3日(月) 13:30~15:30   |
| 場 所 | 本庄キャンパス<br>理工学部6号館都市工学大講義室 |
| 参加者 | 10名(プロジェクトメンバー)            |



## 無意識バイアスeラーニング

### 1. 概要

無意識バイアスとは、これまでの経験や接した情報などにより形成されるバイアス（認知の歪み）のことをいう。無意識のうちに客観的事実と異なる見解を持ってしまい、時には判断を誤ったりすることがある。無意識であるがゆえに、自分自身では気づきにくく、また、誰にでも起こりうるものである。しかし、無意識バイアスをそのままにしておくと、知らないうちに偏見的なものの見方や差別に結びつくような考えや行動をとってしまったり、公平性や公正性を欠いた評価や判断をしてしまうことが分かっている。そのため、まずは無意識バイアスについて知り、理解を深め、私たちそれぞれが無意識バイアスを持っていることに気づくことが大変重要といえる。

2021年度に、本学の教職員及び学生が広く無意識バイアスについて学ぶことを目的に、佐賀大学独自の研修動画を制作した。自分事として学べるよう、佐賀大学の教職員と学生が経験しうる事例をとりあげ、「教職員版」と「学生版」に分けて制作した。制作にあたり、無意識バイアスについて学術的な専門的知識及び助言の提供を受けるため、岩永誠教授（広島大学人間社会科学研究所）に監修していただいた。

### 2. 学習到達目標

教職員版と学生版ともに「本学の教職員・学生が、無意識バイアスについて正しく学び、自分の中のバイアスに気づき、コントロールを意識すること」を学習の到達目標とし、教職員版と学生版は、以下の点を留意しながら制作した。

#### 【教職員版】

- ・無意識バイアスについて正しく知り、判断や評価などの際に、その知識を活用すること
- ・無意識バイアスについて学ぶことで、職場や学内のコミュニケーションの円滑化・業務改善に活かすこと

#### 【学生版】

- ・他者とのコミュニケーションの際に、偏見や固定観念にとらわれず、いろんな視点から物事を考え、大学生活を送ること
- ・就職先や職種を選ぶなど今後のキャリアを考える際に、固定観念にとらわれないようにすること



[https://www.youtube.com/watch?v=B4v-vP\\_2JGg](https://www.youtube.com/watch?v=B4v-vP_2JGg)



<https://www.youtube.com/watch?v=oza--tP3zew>



### 3. 学内でのeラーニング実施について

本学eラーニングサイト（学内限定）を利用して、教職員と学生を対象に実施した（2022～2024年）。教職員については、95%以上の高い受講率となった（一部医療職員は対象から除外）。

### 4. 本学以外での利用

2022年3月にYouTubeに公開して以降、効率的に無意識バイアスについて学べる教材として好評を得て、他大学・他機関や企業において研修教材としても用いられている（7件の報告、延べ約2万人が利用）。

| 組織    | 使用目的       | 対象人数      |
|-------|------------|-----------|
| A大学   | 教職員研修      | 129人      |
| B企業   | 職員研修       | 600～1000人 |
| C企業   | 新入社員研修     | 6人        |
| D公共機関 | 職員研修       | 18,000人   |
| E労働組合 | 機関紙へのURL掲載 | 不特定多数     |
| F企業   | 職員研修       | 120人      |
| G大学   | 教職員研修      | 180人      |

## IV その他の取組

1. シンポジウム・講演会
2. 在宅勤務制度
3. アンケート調査
4. 研究補助員雇用支援
5. 女子中高生の理系進路選択支援プログラム
6. 佐賀大学黒田チカ記念賞

## Ⅳ その他の取組

### 1 シンポジウム・講演会

本学の教職員および一般の方に、本事業及びダイバーシティ推進室の活動について周知することを目的にシンポジウム・講演会を開催した。

#### ・2022年度・

### 令和4年度ダイバーシティ推進室シンポジウム 「研究環境のジェンダーパリティを目指して」

|       |                                                                                                                                                                             |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時   | 2023年2月13日(月) 13:30～14:50                                                                                                                                                   |
| 場 所   | 本庄キャンパス 理工学部6号館2階多目的セミナー室<br>オンライン(Zoom)                                                                                                                                    |
| 対 象   | 佐賀大学教職員・学生・一般の方                                                                                                                                                             |
| 講 師   | 大隅 典子(おおすみ のりこ)氏<br>東北大学副学長(広報・ダイバーシティ担当)                                                                                                                                   |
| プログラム | 13:30 開会挨拶 児玉浩明 佐賀大学学長<br>来賓挨拶(文部科学省科学技術・<br>学術政策局人材政策課人材政策推進室)<br>ダイバーシティ推進室活動報告<br>荒木薫 ダイバーシティ推進室副室長<br>13:45 基調講演「研究環境のジェンダーパリティを目指して」<br>14:45 閉会挨拶 渡孝則 副学長・ダイバーシティ推進室長 |



|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 内 容 | 大隅典子東北大学副学長を招き、「研究環境のジェンダーパリティを目指して」と題してシンポジウムを行った。日本の女性研究者や女性の参画が少ない現状を打破するために無意識のバイアスの払拭が重要であることや、東北大学で実際取り組まれている施策紹介があった。<br>各種統計データ・図表が豊富な発表資料は大変分かりやすく、参加者から「データが豊富で、大変説得力があった」という声が多く寄せられた。<br>シンポジウム終了後のアンケートでは、「そろそろ平等ではなく公平(公正)が必要だと考えていたのでとても共感する内容だった」「男女が働きやすい社会システムの構築が様々な分野での女性の活躍や研究の発展、そして少子化対策へつながることが分かり、これらのことをより多くの人が理解する必要がある」などの感想が寄せられた。 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|     |     |
|-----|-----|
| 参加者 | 70名 |
|-----|-----|



講演中の大隅典子氏



質疑応答の様子

## 令和5年度ダイバーシティ推進室シンポジウム 「大学の未来とダイバーシティ」

**日 時** 2024年1月31日(水) 13:30～15:45  
**場 所** 本庄キャンパス 理工学部6号館1階都市工学大講義室  
**対 象** 佐賀大学教職員・学生・一般の方  
**講 師** 元村 有希子氏 (毎日新聞社論説委員)

**プログラム**

13:30 開会挨拶 児玉浩明 佐賀大学学長  
 13:40 基調講演「大学の未来とダイバーシティ」  
 14:40 学部長によるパネルディスカッション  
 第1部「大学の未来に向けて、今、取り組むべきこと」  
 第2部「ジェンダー・ダイバーシティの実現に必要なこと」  
 登壇者:小野教育学部長、吉住芸術地域デザイン学部長、  
 樫澤経済学部長、野出医学部長、佐藤理工学部長、  
 鈴木農学部長  
 15:45 閉会挨拶 渡孝則 佐賀大学理事・ダイバーシティ  
 推進室長



**内 容** 元村有希子氏(毎日新聞社論説委員)をお招きし「大学の未来とダイバーシティ」と題してシンポジウムを開催した。元村氏ご自身のこれまでの歩みや経験のお話に始まり、他機関のダイバーシティの現状、大学が直面する課題や他大学の新たな取組について紹介があった。

明快で小気味よいお話は、大変分かりやすく、参加者から「もっと聴きたかった!」という声が寄せられた。

シンポジウム終了後のアンケートでは、「このような機会が定期的にあると全体の意識が高まると感じた」「学部長の意見等も聞くことができ、ダイバーシティの意識が共有され有意義だった」という声が多く寄せられました。また、基調講演・パネルディスカッションでも頻繁に出てきたEquity(公平)について、「Equity対応をできるところから始められれば、大学も少しずつ変わっていけるのではないか」という感想が寄せられた。

**参加者** 70名



講演中の元村有希子氏



パネルディスカッションの様子

## 第15回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 佐賀大学 「私たちの“次の一手”九州・沖縄(ここ)から拓く女性研究者支援」

|     |                                        |
|-----|----------------------------------------|
| 日 時 | 2024年9月19日(木) 13:00~17:00              |
| 場 所 | ハイブリッド<br>(本庄キャンパス 佐賀大学教養教育大講義室/ Zoom) |
| 対 象 | 佐賀大学教職員・学生・一般の方                        |
| 講 師 | 渡辺 美代子氏<br>(日本大学常務理事・NPO法人ウッドデッキ代表理事)  |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プログラム | 13:00 開会挨拶 児玉浩明 佐賀大学学長<br>来賓挨拶 山口祥義 佐賀県知事<br>来賓挨拶 田口香津子 佐賀県立男女共同参画<br>センターアバンセ館長<br>13:15 基調講演「転機を迎えたダイバーシティ推進」<br>14:25 パネルディスカッション<br>第1部「学術分野におけるポジティブアクションとは」<br>第2部「今、求められる研究者支援」<br>コメンテーター 渡辺美代子氏、山村康子氏(JSTプログラム主管)<br>進行 荒木薫 ダイバーシティ推進室副室長<br>16:50 Q-wea宣言2024、Q-wea事務局引継式<br>17:00 閉会挨拶 渡孝則 佐賀大学理事・ダイバーシティ推進室長 |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



**内 容** 本シンポジウムは、九州・沖縄アイランド女性研究者ネットワーク(Q-wea)に参加する13大学が輪番で開催しているもので、今年度は佐賀大学が担当校として開催した。

基調講演では、渡辺美代子氏(日本大学常務理事・NPO法人ウッドデッキ代表理事)をお招きし「転機を迎えたダイバーシティ推進」と題して講演していただいた。渡辺氏のこれまでのご経験や各種データの紹介があり、日本が直面する危機・課題解決のために、なぜ今ダイバーシティなのかについて分かりやすくお話ししていただいた。

続いて、Q-wea参加大学の理事や副学長によるパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションは二部構成とし、第1部「学術分野におけるポジティブアクションとは」、第2部「今、求められる研究者支援」をテーマとした。各大学によるオリジナリティあふれる取組紹介とパネラー同士での活発な意見交換が行われ、フロアからもコメントや質問が寄せられ大いに盛り上がった。全体総括として、山村プログラム主管から「継続は力なり。それに尽きる。」との力強い言葉があった。

会の終盤では、Q-wea宣言2024、事務局引継式が行われ、渡孝則佐賀大学理事兼ダイバーシティ推進室長による閉会挨拶にて締めくくられた。

アンケートでは、高い満足度が示され、「渡辺氏のキャリア・経験に加え、各種データから次の一手が必要であることが理解できた」「各大学独自の取組に刺激を受けた」といった声が多く寄せられた。また、「女性研究者の増加だけが目的ではなく、男女のバランスの均衡(40-60%)が目的だということを再認識した」という意見も寄せられた。

**参加者** 188名



講演中の渡辺美代子氏



パネルディスカッションの様子

## 令和6年度ダイバーシティ推進室事業成果報告会 「佐賀大学のこれから-ダイバーシティ研究環境の実現に向けて-」

日 時 2025年3月3日(月) 13:30-15:30

場 所 本庄キャンパス 理工学部6号館都市工学大講義室

- プログラム
- 13:30 開催挨拶 児玉浩明 佐賀大学長
  - 13:40 第2回佐賀大学黒田チ力記念賞表彰式
  - 14:00 事業成果報告
  - 14:15 休憩
  - 14:25 トークセッション:女性研究者と考える  
「佐賀大学のこれから」  
登壇者:平部康子教授、坂本麻衣子准教授、  
鶴若菜准教授、荒木薫ダイバーシティ推進室副室長  
進行:児玉浩明学長
  - 15:25 閉会挨拶 渡孝則 佐賀大学理事・ダイバーシティ推進室長



内 容 令和元年度に採択され、これまで6年間取り組んできた「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)事業」が最終年度を迎えるにあたり、事業成果報告会「佐賀大学のこれから-ダイバーシティ研究環境の実現に向けて-」を開催した。

報告会前半では、荒木薫ダイバーシティ推進室副室長から、当初掲げた6つの目標の取組紹介と達成度について報告があった。さらに本事業によって、女性研究者支援の必要性が学内に広く浸透し、女性研究者の採用割合が確実に増加したことが報告された。

報告会後半のトークセッションでは、平部康子教授(経済学部)、坂本麻衣子准教授(医学部)、鶴若菜准教授(海洋エネルギー研究所)の3名の女性研究者と荒木副室長が登壇し、児玉学長が進行役を務めた。「女性限定公募や女性優先公募」について女性研究者自身はどう感じているのか、どのような環境であれば研究者にとってよりよいのかなどについて、ざっくばらんな意見交換が行われた。

女性研究者3名のリアルな声をきっかけに、今後も女性研究者数増加や上位職への昇任を引き続き推進し、ジェンダーパリティを目指すことが改めて確認された。また、研究者や大学院生による交流会の実施についてフロアから提案があり、実施に向けて前向きに検討していくことになった。

参加者 36名



事業成果報告を行う荒木副室長



トークセッションの様子

## 2 在宅勤務制度

佐賀大学では、職員の育児・介護・障害等による柔軟な働き方の必要性が高い職員への対応及び有事の際の法人の事業継続性の確保を目的として、在宅勤務制度を整備し運用している。

本制度の実施にあたり、より柔軟な対応を可能とするために、対象職員の拡大、在宅勤務申請期間及び承認者変更等の規程改正を経て、現在に至る。

### 国立大学法人佐賀大学在宅勤務実施規程（令和3年4月1日施行）より抜粋

| 在宅勤務対象者                                                    | 期間         |
|------------------------------------------------------------|------------|
| (1) 中学校就学の始期に達するまでの子を養育している職員                              | 1週間に2日以内   |
| (2) 要介護者である家族を介護している職員                                     |            |
| (3) 障害、負傷、疾病、妊娠又は遠隔地での勤務（学長が認めた場合に限る。）により、通勤が困難であると認められる職員 | 必要と認められる期間 |
| (4) 地震、水害、火災その他の災害又は交通機関の事故等により、出勤が困難であると認められる職員           |            |
| (5) その他部局長等が必要と認めた職員                                       |            |

令和3年3月24日制定

令和5年6月28日改正

令和6年3月29日改正

### 3 アンケート調査

研究環境の働き方改革について、全教職員に対して「令和5年度ダイバーシティ推進にかかる実態調査」を実施した。

#### 【調査目的】

佐賀大学教職員のダイバーシティの実態や課題・要望を把握し、今後の本学におけるダイバーシティ推進に役立てる。

#### 【調査対象】

佐賀大学教職員(非常勤の職員含む)約2,700名

#### 【調査方法】

オンライン調査(Office 365 Formsを使用)

#### 【調査期間】

2023年11月10日(金)～2023年11月30日(木)

#### 【調査項目】

| 項目内容                    | 教員   | 職員   |
|-------------------------|------|------|
| I 基礎項目(回答者の属性)          | 7～8問 | 7～8問 |
| II 研究に関する質問(大学教員・研究者のみ) | 5問   | —    |
| III ライフ関連・両立支援について      | 23問  | 23問  |
| IV LGBTsについて            | 4問   | 4問   |
| V 男女共同参画について            | 17問  | 17問  |
| VI ダイバーシティ推進について        | 4問   | 4問   |

## 4 研究補助員雇用支援

研究と出産・育児・介護等のライフイベントとの両立を目指し、研究時間の確保が困難と認められる研究者に対して、該当研究者の指揮命令の下で、研究を支援する業務に従事する研究補助者の雇用に係る経費を支援している。

### 研究補助員雇用支援 採択者一覧

| 年度                | 支援の種類   |   | 所属   | 実施時期    | 採択者 |
|-------------------|---------|---|------|---------|-----|
| 2022年度<br>(令和4年度) | 出産・育児支援 |   | 医学部  | 10月～12月 | 5名  |
|                   | 出産・育児支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 |   | 農学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 介護・看病支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 |   | 医学部  | 1月～3月   | 6名  |
|                   | 出産・育児支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 |   | 農学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 介護・看病支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 | ■ | 経済学部 |         |     |
| 2023年度<br>(令和5年度) | 介護・看病支援 |   | 医学部  | 11月～12月 | 7名  |
|                   | 出産・育児支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 |   | 農学部  |         |     |
|                   | 介護・看病支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 | ■ | 経済学部 |         |     |
|                   | 出産・育児支援 | ■ | 農学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 | ■ | 農学部  | 1月～3月   | 7名  |
|                   | 出産・育児支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 |   | 農学部  |         |     |
|                   | 介護・看病支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 | ■ | 経済学部 |         |     |
|                   | 出産・育児支援 | ■ | 農学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 | ■ | 農学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 |   | 医学部  |         |     |
| 2024年度<br>(令和6年度) | 出産・育児支援 |   | 医学部  | 11月～3月  | 6名  |
|                   | 出産・育児支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 |   | 医学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 |   | 農学部  |         |     |
|                   | 出産・育児支援 | ■ | 農学部  |         |     |
|                   | 介護・看病支援 | ■ | 農学部  |         |     |

■は、男性研究者利用

## 5 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

佐賀大学ダイバーシティ推進室では、2017年(平成29年)度から高大連携接続の一環として、女子中高生を中心に理系分野に対する関心を高め、理系分野へ進むことを志すための様々な取組・支援を行っている。

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が行う「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に2018年(平成30年)度に初めて採択されて以降、2024年(令和6年)度に至るまでに4期連続で採択されている。2022年(令和2年)度以降は、連携機関と協力し、大学教員による専門講義やキャリア講義、実験体験会、大学生・大学院生との交流を通じて、未来を担う次世代が前向きな進路選択ができるように支援に取り組んでいる。

これまで7年間での参加者は、女子中学生2,414名、女子高校生2,202名、保護者657名、教員681名であった。

2020年(令和2年)度採択

継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO(2020-2023)

連携機関:西九州大学、長崎国際大学、佐世保工業高専※ ※2022年度から新規参加



2024年(令和6年)度採択

継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム(2024-2026)

共同機関:久留米工業大学 連携機関:西九州大学、長崎国際大学、佐世保工業高専



Webサイト <https://rikejo.oedi.saga-u.ac.jp>



## 6 佐賀大学黒田チカ記念賞

令和5年(2023年)に佐賀大学学長賞の一つとして、佐賀出身であり日本で最初の女子大学生の一人で、化学分野における最初の女性博士として知られている黒田チカ博士のお名前を冠した「佐賀大学黒田チカ記念賞」を創設した。

本記念賞は、優れた業績を上げた女性研究者及びダイバーシティ研究環境形成に貢献した教職員等を表彰するもので、「女性研究者部門」「女性研究者支援部門」に分けて実施する。本記念賞によって、研究意欲の向上及び後進の育成に資すること並びに本学の構成員一人ひとりが自らの能力を最大限に発揮できるダイバーシティ環境への理解及び取組を推進することを目指す。

### 受賞者一覧

| 年度    | 部 門       | 受賞者          | 所 属                | 受賞理由                                                                               |
|-------|-----------|--------------|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和5年度 | 女性研究者部門   | 原 めぐみ        | 医学部 准教授            | 論文、著書、総説を多数発表し、「予防医学のゲノムコホート研究」と「公衆衛生に関連する予防接種の疫学研究」と2種の分野において、リーダーシップを発揮している。     |
|       | 女性研究者支援部門 | 佐藤 和也<br>橘 基 | 理工学部 教授<br>理工学部 教授 | 理工学部の女子大学院進学を推進するために、女性のキャリアプランや大学院進学に関する講演会・座談会を複数回開催している                         |
|       |           | 坂口 幸一        | 理工学部 准教授           | 女性研究者の少ない理工学部において、大学院生だけではなく若手研究者の育成を積極的に行っている。                                    |
| 令和6年度 | 女性研究者部門   | 辻田 有紀        | 農学部 教授             | 論文数、学会発表数、研究費獲得において顕著な実績あり。2023 年種生物学会誌においてBest Paper Awardを受賞。大学院生育成等に指導力を発揮している。 |
|       |           | 坂本 麻衣子       | 医学部 准教授            | 論文数、学会発表数、研究費獲得において顕著な実績あり。2023年国際神経心理学会においてアジア初のOutstanding Leadership Awardを受賞。  |
|       | 女性研究者支援部門 | 該当者なし        |                    |                                                                                    |



令和5年度受賞者



令和6年度受賞者

※辻田有紀准教授が長期出張で不在のため、鈴木農学部長が代理で受賞した

黒田チカ記念賞  
サイト



# V

## 情報発信

1. ウェブサイト

2. ニュースレター

3. その他印刷物

## 1 ウェブサイト

ダイバーシティ推進室およびダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)のウェブサイトにて、イベント案内や活動報告、支援情報、助成金情報などを掲載している。

### ダイバーシティ推進室



<https://www.oedi.saga-u.ac.jp>



### ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)



<https://www.oedi.saga-u.ac.jp/initiative/>





2023年3月発行

[illegible][illegible]

[illegible][illegible][illegible][illegible]

筑波大学 ダイバーシティ推進室

News letter

vol. 10

SAGA DIVERSITY

vol. 10

筑波大学ダイバーシティ推進室の活動について | 筑波大学ダイバーシティ推進室の活動について | 筑波大学ダイバーシティ推進室の活動について

筑波大学黒田博士記念賞を贈呈！国際学術式を繰返しました

12月14日（水）筑波大学国際学術式が、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。国際学術式実行委員会は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。国際学術式実行委員会は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。

国際学術式は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。国際学術式実行委員会は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。国際学術式実行委員会は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。国際学術式実行委員会は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。

国際学術式は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。国際学術式実行委員会は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。国際学術式実行委員会は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。

国際学術式実行委員会主催の国際学術式

筑波大学黒田博士記念賞を贈呈する国際学術式

黒田博士記念賞について

国際学術式は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。国際学術式実行委員会は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。国際学術式実行委員会は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。国際学術式実行委員会は、国際学術式実行委員会主催の国際学術式で、筑波大学黒田博士記念賞を贈呈しました。

国際学術式  
実行委員会  
主催の  
国際学術式

筑波大学黒田博士記念賞を贈呈する国際学術式

筑波大学黒田博士記念賞を贈呈する国際学術式

第1回筑波大学黒田博士記念賞 授賞式

| 学 科           | 氏 名   | 授 賞 式 | 授 賞 式 | 授 賞 式 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|
| 国際学術式<br>(国際) | 黒田 博士 | 黒田 博士 | 黒田 博士 | 黒田 博士 |
| 国際学術式<br>(国際) | 黒田 博士 | 黒田 博士 | 黒田 博士 | 黒田 博士 |
| 国際学術式<br>(国際) | 黒田 博士 | 黒田 博士 | 黒田 博士 | 黒田 博士 |

筑波大学黒田博士記念賞を贈呈する国際学術式

[illegible][illegible]

文部科学省科学技術人材育成費補助事業(2019-2024)  
**ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先進型)**
令和6年度公募型

イニシアティブ研究環境実現イニシアティブ(先進型)の概要は、本報掲載のダイバーシティイニシアティブ(先進型)の概要と、令和6年度の公募型研究環境実現イニシアティブ(先進型)の概要(本報掲載)を併せてご覧いただけます。

### 令和6年度 国際研究交流助成事業

本助成事業は、本邦研究者海外での研究滞在やグローバルな協働を通して、研究交流の質的向上に資することを目指す。令和6年度は、重点的支援を行う2件を採択しました。

| 区分                                  | 研究種別  | 研究国 | 種別   | 研究機関名 |
|-------------------------------------|-------|-----|------|-------|
| A 国際研究交流型(海外滞在型)<br>(海外滞在期間: 1週間以上) | 研究滞在型 | 研究国 | 研究種別 | 研究機関名 |
| B 国際研究交流型(海外滞在型)<br>(海外滞在期間: 1週間未満) | 研究滞在型 | 研究国 | 研究種別 | 研究機関名 |

### 令和6年度 女性研究者海外派遣支援事業

令和6年度は、本邦研究者海外以下4国を対象とします。

| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
|------|------|-----|-------|------|-------|------|-------|
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 | 研究種別 | 研究機関名 |
| 研究区分 | 研究種別 | 研究国 |       |      |       |      |       |



## 継続・育成型 STEAMガールズ コンソーシアム

女子中高生の将来志向を支援するプログラム(2014-2021)

2021年6月4年度女子中高生の  
将来志向調査結果発表プログラムに  
参加されました。

4年度調査結果より、最も希望する職業分野は「IT・テクノロジー系」であり、次いで「医療・健康系」であった。また、最も希望する大学・学部・学科は「理工系大学・学部・学科」であった。また、大学・学部・学科の希望は、将来の職業志向と一致していた。

今後、1・2年度は、専攻分野「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。

女子中高生の保護者を対象とした取組を開催

今後専攻分野の選択について、女子中高生の将来志向を支援する大学・学部・学科の希望分野と一致していた。また、最も希望する大学・学部・学科は「理工系大学・学部・学科」であった。また、大学・学部・学科の希望は、将来の職業志向と一致していた。



専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。



専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。



専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。

「令和3年度」(理系学部)で最も希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。

2021年6月4年度女子中高生の将来志向調査結果発表プログラムに参加されました。

専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。





専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。



専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。



専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。



専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。

専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。

専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。



専攻分野の希望分野は「STEM」系、IT・テクノロジー系、医療・健康系、環境・エネルギー系、芸術・デザイン系、スポーツ・健康系、社会・経済・政治・法律系、人文・社会科学系、国際・グローバル系、その他分野の専門知識を身に付け、大学・学部・学科の希望分野に進学し、将来の職業志向を実現する。

### 3 その他印刷物

令和3年度女性研究者の公正な昇任昇格制度改善プロジェクトの取組として、「教員採用ハンドブック」を作成し、教員全員に配布した。



2022年2月28日完成

ダイバーシティ研究環境実現  
イニシアティブ(先端型)  
事業活動記録

# ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ(先端型)事業活動記録

## 2022年度（令和4年度）

| 年    | 月 日    | 活 動 内 容                                                     |
|------|--------|-------------------------------------------------------------|
| 2022 | 4月26日  | 役員会で令和4年度予算決定（先端型継続のための経費を確保）                               |
|      | 5月26日  | 学長・担当理事と令和4～6年度の活動方針について検討                                  |
|      | 5月31日  | 部局長との意見交換連絡会にて、担当理事から令和4～6年度の活動について方針を提示                    |
|      | 7月1日   | コーディネーター1名採用、着任                                             |
|      | 8月8日   | 令和4年度女性研究者の研究発信サイト「さがシーズMusubime」制作支援事業募集開始                 |
|      | 8月9日   | DX/RXを活用した研究・教育における業務効率化課題解決に向けての女性研究者との懇談会を実施（DX推進室との共同開催） |
|      | 9月2日   | 令和4年度共同研究活動費支援事業要項一部改正（助成額等）、募集開始                           |
|      | 9月20日  | 令和4年度女性教員海外派遣支援事業要項一部改正                                     |
|      | 9月21日  | 令和4年度女性教員海外派遣支援事業募集開始（短期派遣、Web留学、国際学会派遣に限定）                 |
|      | 9月27日  | 令和4年度女性研究者の研究発信サイト「さがシーズMusubime」制作支援事業4名採択                 |
|      | 9月29日  | 令和4年度第1回ダイバーシティ推進室運営会議開催                                    |
|      | 10月15日 | 令和4年度研究力向上セミナー「英語論文執筆セミナー Getting Published Workshops」開催    |
|      | 10月31日 | 令和4年度共同研究活動費支援事業の支援者決定（研究リーダー促進型1件）                         |
|      | 12月16日 | eラーニング「無意識バイアスマネジメント」を全教職員を対象とした実施（12/16～3/31）              |
|      | 12月26日 | 令和4年度女性教員海外派遣支援事業 国際学会派遣者決定（1名）                             |
|      | 12月27日 | ニュースレター「SAGA DIVERSITY Vol. 7」発行                            |
| 2023 | 2月13日  | 令和4年度ダイバーシティ推進室シンポジウム「研究環境のジェンダーパリティを目指して」開催（ハイブリッド）        |
|      | 2月13日  | 女性研究者の公平な昇任昇格制度改善プロジェクトとして、大隅典子氏を迎えて、プロジェクトメンバーとの座談会を実施     |
|      | 2月22日  | 令和4年度女性研究者の研究発信サイト「さがシーズMusubime」新規4名の情報を公開                 |
|      | 3月10日  | 女性教員海外派遣支援事業の要項を一部改正（派遣期間・対象人数を変更）、名称を女性研究者海外派遣支援事業に変更      |
|      | 3月10日  | 女性研究者を代表者とする共同研究活動費支援事業要項を一部改正                              |
|      | 3月14日  | 令和4年度FD・SD業務改善学習会「はじめてのアンガーマネジメント -イライラと上手に向き合う-」開催（対面）     |
|      | 3月29日  | 役員会で令和5年度予算決定（先端型継続のための経費を確保）                               |
|      | 3月31日  | ニュースレター「SAGA DIVERSITY Vol. 8」発行                            |

## 2023年度（令和5年度）

| 年    | 月 日    | 活 動 内 容                                                                              |
|------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 2023 | 4月3日   | 令和5年度女性研究者海外派遣支援事業の募集開始                                                              |
|      | 4月26日  | 令和5年度共同研究活動費支援事業の募集開始                                                                |
|      | 5月12日  | 令和5年度第1回佐賀大学ダイバーシティ推進会議（書面会議）開催                                                      |
|      | 5月19日  | 学長・担当理事と令和5～6年度の活動方針について検討                                                           |
|      | 5月29日  | 令和5年度女性研究者海外派遣支援事業の派遣者決定（中期派遣者2名、短期派遣者1名）                                            |
|      | 6月14日  | 部局長との意見交換連絡会にて、担当理事から令和5～6年度の活動について方針を提示                                             |
|      | 7月20日  | 令和5年度共同研究活動費支援事業の支援者決定（研究リーダー促進型2件）                                                  |
|      | 8月8日   | 令和5年度女性研究者海外派遣支援事業の追加募集開始                                                            |
|      | 9月11日  | eラーニング「無意識バイアスマネジメント」を令和4年度未受講者及び新規採用者を対象に実施（9/11～10/31）                             |
|      | 9月13日  | 令和5年度女性研究者海外派遣支援事業国際学会派遣者決定（1名）                                                      |
|      | 10月12日 | ニュースレター「SAGA DIVERSITY Vol. 9」発行                                                     |
|      | 11月10日 | 「令和5年度ダイバーシティ推進にかかる実態調査」を全教職員を対象に実施（11/10～11/30）                                     |
|      | 11月24日 | 佐賀大学黒田チカ記念賞を創設。募集要項等決定、募集開始                                                          |
|      | 12月11日 | 令和5年度女性研究者海外派遣支援事業の再追加募集開始                                                           |
| 2024 | 1月12日  | 令和5年度女性研究者海外派遣支援事業国際学会派遣者を決定（2名）                                                     |
|      | 1月31日  | ダイバーシティ推進室シンポジウム「大学の未来とダイバーシティ」開催（対面）                                                |
|      | 2月6日   | 令和5年度FD・SD業務改善学習会「断捨離®の効用 -空間を味方にする極意-」開催（対面）                                        |
|      | 2月27日  | 第1回佐賀大学黒田チカ記念賞の表彰式実施。優れた業績をあげた女性研究者1名（女性研究者部門）、ダイバーシティ研究環境形成に貢献した教職員3名（女性研究者支援部門）を表彰 |
|      | 3月10日  | 女性研究者を代表者とする共同研究活動費支援事業要項を一部改正                                                       |
|      | 3月14日  | 令和5年度研究力向上セミナー「PIに学ぶ仕事術 -研究力を向上するには-」開催（オンライン）                                       |
|      | 3月14日  | 女性研究者海外派遣支援事業の要項を一部改正                                                                |
|      | 3月14日  | 女性研究者を代表者とする共同研究活動費支援事業要項を一部改正                                                       |
|      | 3月27日  | 役員会で令和6年度予算決定（先端型継続のための経費を確保）                                                        |
|      | 3月29日  | ニュースレター「SAGA DIVERSITY Vol. 10」発行                                                    |
|      | 3月29日  | 女性研究者の研究発信サイト「さがシーズMusubime」に新規2名の情報を公開                                              |

## 2024年度（令和6年度）

| 年    | 月 日           | 活 動 内 容                                                                                  |
|------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2024 | 4月1日          | 令和6年度女性研究者海外派遣支援事業の募集開始                                                                  |
|      | 4月1日          | 令和6年度共同研究活動費支援事業の募集開始                                                                    |
|      | 4月24日         | 令和6年度女性研究者海外派遣支援事業国際学会派遣者決定（3名）                                                          |
|      | 4月25日         | 理事と令和6年度の活動方針について検討                                                                      |
|      | 4月30日         | 令和6年度第1回佐賀大学ダイバーシティ推進会議（書面会議）開催                                                          |
|      | 5月8日          | 役員会で、担当理事から令和6年度の活動について方針を提示                                                             |
|      | 5月27日         | 令和6年度共同研究活動費支援事業の支援者決定（研究リーダー促進型1件、共同研究構築型1件）                                            |
|      | 5月28日         | 女性研究者海外派遣支援事業派遣者決定（長期派遣1名、短期派遣1名）                                                        |
|      | 9月1日          | eラーニング「無意識バイアスマネジメント」を令和5年度未受講者及び新規採用者を対象に実施（9/1～10/31）                                  |
|      | 9月5日<br>9月12日 | 令和6年度FD・SD業務改善学習会「業務効率化のためにForms, Excel, PowerPointについて学ぼう!!」<br>Forms・Excel研修開催（ハイブリッド） |
|      | 9月19日         | 第15回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 佐賀大学「私たちの”次の一手”九州・沖縄（ここ）から拓く女性研究者支援」開催（ハイブリッド）            |
|      | 11月13日        | 第2回佐賀大学黒田チカ記念賞募集開始                                                                       |
|      | 12月11日        | ニュースレター「SAGA DIVERSITY Vol. 11」発行                                                        |
| 2025 | 2月27日         | 令和6年研究力向上セミナー「研究力向上の秘訣-選択と挑戦の軌跡-」開催（オンライン）                                               |
|      | 3月3日          | 第2回佐賀大学黒田チカ記念賞の表彰式実施。優れた業績をあげた女性研究者2名（女性研究者部門）を表彰                                        |
|      | 3月3日          | ダイバーシティ環境実現イニシアティブ（先端型）最終年度成果報告発表会開催                                                     |



文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)  
2022～2024年度活動報告書

---

発行日／2025年3月

発 行／佐賀大学ダイバーシティ推進室

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8393

FAX 0952-28-8890

WEB <https://www.oedi.saga-u.ac.jp>





SAGA UNIVERSITY  
国立大学法人

佐賀大学